

大分市教育実践記録

資 料

優れたミドルリーダーの育成と 校長のリーダーシップ

～ キャリアステージに応じた

校内OJTの推進を通して ～

大分市立高田小学校 校長 佐藤 宏明

資料目次

資料① ウェルカム授業について（昨年度）		ページ
①の1	指導教諭研修だより「チーム高田NO. 12」	・・・ P 1
①の2	ウェルカム授業写真	・・・ P 3
①の3	ウェルカム授業資料（第3回目：理科）	・・・ P 5
①の4	授業を参観した感想（校長より）	・・・ P 7
資料② 互見授業について（本年度）		
②の1	互見授業の提案（指導教諭より）	・・・ P 9
②の2	校内研修資料（研究主任より）	・・・ P 10
②の3	学力向上プラン授業改善取組指標（学力向上担当より）	・・・ P 15
②の4	授業を参観した感想（校長より）	・・・ P 16
②の5	互見授業の写真 T児の活躍（3学年算数）	・・・ P 17
②の6	新採3年目教員の授業板書比較（2学年道徳）	・・・ P 18
資料③ アンケートによる自己や自校組織の振り返り（昨年度・本年度）		
③の1	校内ミドルリーダー研修の資料	・・・ P 19
③の2	教員組織所属意識尺度の解説とアンケート	・・・ P 22
③の3	教師の職業生活自己分析尺度の解説とアンケート	・・・ P 26
資料④ キャリアステージに応じた役割と支援（本年度）		
④の1	キャリアステージに応じた教員への支援例	・・・ P 29
④の2	トークンシステムを活用した児童支援カード	・・・ P 31
資料⑤ 3部会の年間計画表（昨年度・本年度）		
⑤の1	「知」部会 校内研修年間計画	・・・ P 33
⑤の2	「徳」部会 生活指導 年間計画	・・・ P 34
⑤の3	「体」部会 体力向上 年間計画	・・・ P 35
資料⑥ 来年度に向けた校時表の見直し（本年度）		
⑥の1	来年度の校時表案	・・・ P 36
⑥の2	来年度の変更点に係る説明資料（保護者・地域へ）	・・・ P 38

資料①

ウェルカム授業について

(昨年度)

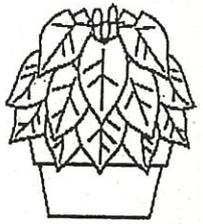
①の1 . . . 指導教諭研修日より
「チーム高田 No. 12」

①の2 . . . ウェルカム授業写真

①の3 . . . ウェルカム授業資料
(第3回目：理科)

①の4 . . . 授業を参観した感想
(校長より)

ウェルカム授業をベースに授業を
行って自身をつけた若手教員へ



OJTのためのウェルカム授業 ありがとうございました

2 学期実施された授業

10月29日(月)	3年	特活	「感謝の気持ちを伝えよう」	工藤
11月7日(水)	2年	国語	「2組のプレ授業」	菅先生
11月27日(火)	4年	理科	「ものにあたたまりかた」	校長先生
12月3日(月)	3年	算数	「分数のたし算」	工藤
12月3日(月)	4年	算数	「四角形」	池田先生
12月4日(火)	6年	算数	「場合の数」	佐藤(た)先生
12月7日(金)	5年	算数	「割合」	是松先生
12月11日(火)	5年	算数	「割合」	橋本先生
12月12日(水)	6年	算数	「場合の数」	佐藤(ふ)先生

お忙しい中、快く授業してくださり、ありがとうございました。

若手の先生方が先輩先生方の授業を参考にさせていただき、自身のスキルアップにつながったことはもちろんですが、「若手の先生方を皆で育てたい」という高田の雰囲気を感じていただけたことも、大変うれしく思いました。

また、若手の先生が学級を空けやすいよう代替に入ってくださった先生方にも、感謝申し上げます。

若手の先生方から、「自身の授業に取り入れたいと思ったこと」や「授業の流し方など開眼したこと」などの感想を寄せていただきましたので、紹介いたします。

3年算数(分数)

考え方1~4のプレート

- ・全員正解するまで、練習問題を解く。
- ・頑張った子に拍手
- ・間違ってもいいんだと思えるような学級の雰囲気がとても伝わってきました。数直線を使って考えている子が少なく、まとめていく中で消されてしまうのかなと思いましたが、そこを貴重な意見として取り上げていて、考えに自信をもたせるような声かけを私も真似できたらなと思います。

4年算数(垂直、平行と四角形)

- ・四角形を比べる時に見た目で判断しないことを抑えていた。
- ・丁寧に前時の授業内容から見通しを持たせていた。(辺の長さ、角の大きさ、垂直、平行)
- ・調べやすくなるように図形のプリントを配布していた。
- ・ハキハキした声とテンポよく授業を進めていた。

5年算数(割合)

- ・意見を聞くとき、自分の考えをノートに書くときなど、「静」と「動」のメリハリ。
- 「これはこういうことかいいのかな」や「それってどういうこと」など、出た意見をさらに子どもに詳しく説明させるように誘導する声かけをされていて、ぜひ真似していきたいと思います。
- ・答えを求める前に見積もりを取る。
- ・子どもから出た考えの似ているところを探し、まとめにもっていく。
- ・問題を見て、わかっていること、これから求めることに線を引く。
- ・わりばしじ
- ・間違った意見を正さず、あえてそのままにし、考えをまとめていく中でその子自身に気づかせたり、ストップで子どもに数直線の線を引くところを決めさせたり、私なら自分で言ったりやっしまいそうな所を子どもにさせるのがすごいなと感じました。

6年算数(場合の数)

- ・具体物を使う(ボタン)。
- ・グループで机をくっつけて考えを深める。
- ・困りを子どもに出させ、解決策を見つける。
- ・まとめを終えたあと、ノートを使って練習問題を解くのではなく、実際に人を動かしてみんなで何通りか考えていくのはとても良かったし、印象に残りました。
- ・机間指導のときに、いい考えを書いている子に「発表してほしいな」と声かけ。
- ・ぼろっと出た子どもの声を拾う。
- ・「それを言ってほしかった！」や「君たちならできると思うんだけどな～」など、子どもにさせる、のではなく、自分でしたくなるような声かけがとても印象的でした。自分以外のホワイトボードを説明させるなど、発表に自信がない子サポートも真似していきたいです。
- ・子どもたちに見通しをさせたことがそのまま課題につながっていくという形が新しく、参考にしたいと思いました。
- ・限られた時間の中で全員の答えを把握し、全体に広がるような指名が参考になりました。
- ・誤答を取り上げる際、児童が間違いに気づいて訂正を加えたタイミングを意識することで児童を守ることができることが分かりました。

4年理科(ものあたたまりかた)

- ・実験の留意点が分かりやすい掲示物にまとめられていたことが、時間の短縮につながると感じました。
- ・意見を否定せず、子どもたちに考えを吟味させることで真理を追究する態度を養うことができるのだと感じました。
- ・なぜ空気を温めるとビーカーの上につけた栓が飛ぶのかということ、楽しい実験を通して子どもたちに考えさせていたところが、とても参考になりました。
- ・興味をひき、予想を立てさせ、実験で確かめていくという流れや、子どもへの声かけ、教材・教具の工夫も勉強になりました。ありがとうございました。
- ・授業後の子どもたち全員の感想に「楽しかった」「驚いた」「理科が好きになった」ということが書かれていました。全員が実験やその結果に高い興味をもつこと、全員が楽しく実験できる(成功する)こと、実験の中で全員が疑問をもつことが大切だと学びました。
- ・ワークシートに、絵をかいて考えを書くのが楽しい感じる児童が多いこともわかりました。

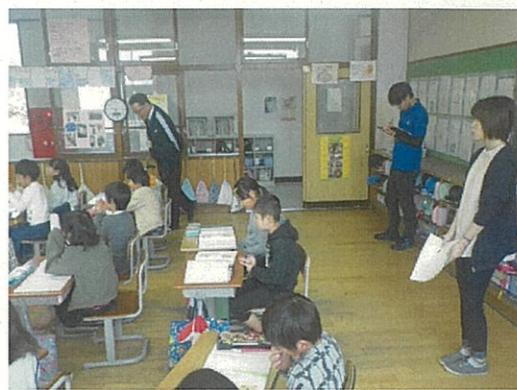
- 3学期も機会があればぜひ実施をと願っています。若手の先生方の参考になる単元やおすすめの時間がありましたら、工藤までお知らせください。代替等コーディネートいたします。

高田小学校のウェルカム授業（人材育成）

「ベテランから若手へ 若手からベテランへ 互いに学び合う」



【第2回】 2年1組 国語 「絵を見てお話をつくろう」 授業者 菅 睦美（研究主任→ 学年主任）



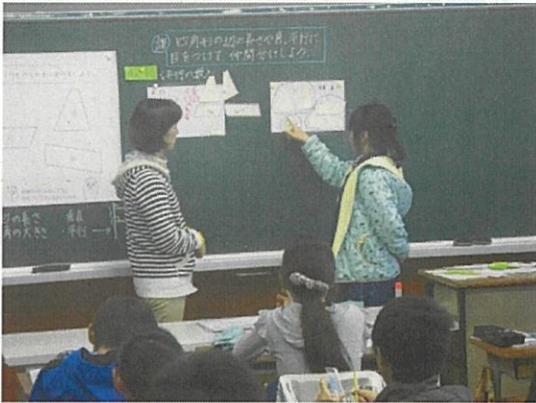
【第3・4回】 4年1組・2組 理科 「空気のひみつをさぐろう」 授業者 佐藤 宏明（校長）



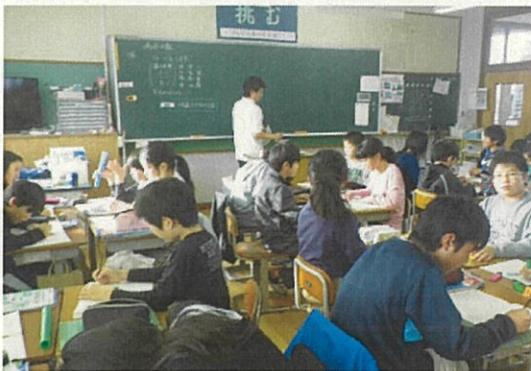
【第5回】 3年1組 算数 「分数の足し算の仕方を考えよう」 授業者 工藤 暢子（指導教諭）



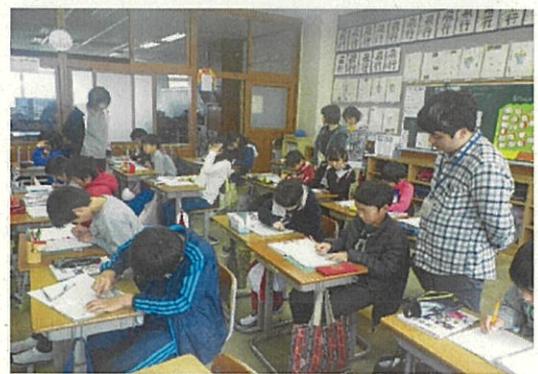
【第6回】 4年1組 算数「図形の仲間分けをしよう」 授業者 池田 裕子(学年主任→ 学年主任)



【第7回】 6年1組 算数 「場合の数」 授業者 佐藤 隆行(学年主任 → 生活指導主任)



【第8回】 5年2組 算数 「割合」 授業者 是松 智子(学級担任 → 学年主任)



【第10回】 6年2組 算数 「場合の数」 授業者 佐藤 郁子(学級担任 → 指導教諭)



○本時のねらいについて

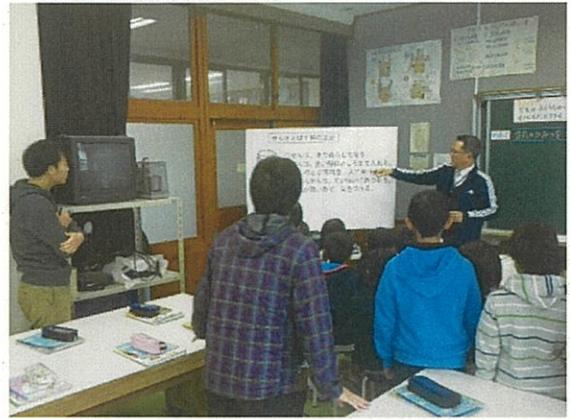
空気を温めて栓をとばす活動を通して、せんがとぶわけに疑問をもち、原因を追求していくようにしたい。そして、自分なりの考えを交流し合い、新しい問題を生み出して次時へとつなぎたい。これは1時間完結型ではなく、1時間連結型の授業であると捉えている。

○本時の流れと問題解決を進める手立てについて

学習活動	問題解決を進める手立て	児童の意識
1. 空気でっぽうの学習を想起し、本時のめあてをつかむ。 (めあて) 空気のひみつをさがろう	○「空気はおし縮められる」ことや「もとにもどろうとする」ことを想起させ、空気のひみつについてさらに調べていこうとする意欲をもたせる。	○空気には、まだぼくたちの知らないひみつがあるのかな？ ○どんなひみつだろう？
2. 試験管内の空気を温め、栓をとばす活動を行う。	○初めは教師の演示実験を見せて興味を持たせ、「みんなもやってみよう」と誘いかける。(安全面に気をつけることと実験方法を確認する)	○空気でっぽうのように押していないのに栓がとんだ。やってみたい。 ○なぜとぶのかな？
3. 空気を温めると栓がとぶわけを考える。 (課題) せんがとんだのは、試験管の中の空気がどうなるからだろうか？	○ワークシートに自分の考えを書かせる。目に見えない空気を想像して、図でも書いてよいことを伝える。 ○取り上げたい考えの児童には、4活の発表に向けて大きめの紙に書かせておく。	○熱で空気が押されて上に行って栓をとばした。 ○空気が温められて増えて栓をおした。 ○空気が温められてふくらんで栓をおした。 等々
4. 自分の考えを発表し合い、新たな問題を生み出す。 (深める問い) 空気は温めると上にいくのか、それともふえるのか？	○時間があれば同じ班の中で考えを伝えさせ、その後取り上げたい考えの児童を指名し前で発表させる。 ○出された考えを大きく「空気が上に行った。」と「空気が増えた」の2つに分けて比較し、違いを明らかにする。 ○「空気が上に行った。」と「空気が増えた」の根拠となるような生活経験を想起させる。	○ぼくは「空気が上に行った。」と思ったけれど、「空気が増えた」という考えも出てきた。 ○どちらの考えが本当なのだろう。確かめてみたい。
5. 確かめる方法を考える。	○「シャボン玉を使えば確かめられそうだ」という見通しを持たせて、次時へつなぐ。	○試験管を下に向けて温めても、シャボン玉ができたら……。できなかったら……。だ。



(導入) 演示実験で興味・関心を高める



(実験の注意) 安全面等に配慮



(実験) 各自で試して、驚き(すごい)や疑問(あれ?? なぜ?)をもたせる。 ※内的体験活動



(実験) 意欲的だがまだ課題の段階ではない



(発表) 課題に対し、自分の考えを出し合う



(比較) 考えの背景を明らかにし、比べる。



(問いの深化) 新たな課題(問い)を生み出す。

授 業 の 感 想

校長 佐藤宏明

【授業 月日】 平成30年11月8日(木) 3校時
【学級名・担任】 高田小学校 2年2組 谷川 萌唯
【教科・題目名】 国語 「お話のさくしゃになろう」

とても落ち着いた雰囲気の中で授業が進んでいきました。子ども達が課題をしっかりと引き受け、よく考えていたよい授業でした。このような授業が続くと、子ども達の意欲が向上し学力が着くだけでなく、学校がより楽しい場になります。離席する子どもなど、出るわけがありません。教具等の準備もある程度整えた上での授業でした。うまくいった授業を振り返ると、そこにより授業づくりのヒントがたくさんあります。私だけでなく、参観された方々にたずねながら振り返り、今後の授業づくりに役立ててください。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

客観的に授業を観ていた者として、気がついたことを書きます。よかったことは☆、検討してほしいこともある時は◇にしています。

〈授業のしかけ(例文の準備)〉

- ☆ 「事件がないと面白くない」ということを、例文を2つ用意し比較させることで理解させた。子ども達にわかりやすいので、「よし、先生のように少し工夫してみよう」という意欲も持てた。
- ☆ 「事件」のところで、例をたくさん用意していたし、子どものアイデアも取り上げていた。
- ☆ 「どうしても思いつかない人は、前と一緒にいいよ」と、思いつかない子への配慮もあった。

〈子どもとのやり取り〉

- ☆ 事件を考えて発表した子で「きれいなものと出会った」という発言があったが、谷川先生はすぐに、「例えば何?」とたずねかえしていたのがよかった。子どもの発言を聞くだけでなく、今日のように考えを掘り起こすことも大切な技術です。驚いたり感心したりしてあげたのもよかったです。

〈活動中の支援〉

- ◇ ワークシートに自分の考えを書かせた時、子ども達の多くはよく書いていたと思います。ただ、中には考えが思いつかない子どももいました。そのような子には、どんな言葉をかけたらよいでしょうか。例えば「したこと」を考えているときだったら、「〇〇さんの好きなことでいいんだよ。〇〇さんは、何が好きかな?」というように、ヒントになりそうな言葉を準備しておくともよいです。
- ◇ ペアでワークシートを見合う場を設けていたのはよかったし、何を見合うかがわかりやすかったと思います。ペアトークのレベルを上げていくためには、見合うだけでなく感想やアドバイス(肯定的な)も取り入れていくともよいです。グループ活動も積み重ねで随分上達します。「こんな話し合いができる」といいうイメージを先生がもっておくことです。

〈その他余談です〉

- ・授業が始まる前に、子ども同士のトラブルがありました。どう対応されるかというの、見せてもらいました。「授業をすぐに始めたいし、子どもの話も聞きたいし・・・」と困られたことでしょうか。是非、学年部や教頭先生、私に自分からたずねてみて下さい。
- ・指導案も用意されていて、先生の成長を感じました。主眼について私なら下記のように書くと思うので参考にして下さい。

「中」で起こる出来事を、
(児童の学習内容)

考え、
(児童が学習内容をどうするのか)

さし絵を見たり2つの例文を比較したりすることによって
(教師の手立て)

簡単な文章で書き表すことができる。
(児童が本時末に到達する姿)

谷川先生 お疲れさま

これからも 自信をもっていきましょう

- ◎ 学年主任の菅先生の授業をベースに、自分なりの工夫をこらしていましたね。その成果が、子ども達の学ぶ姿に表れていました。



落ち着いた雰囲気、子どもが学習に集中していました。友達の発表もよく聞こうと、その人の方を向いて聞いているのがわかります。



谷川先生の表情がとてもいいですね。子どもの話を聞きながら、驚いたり、感心したりしています。子ども達の意欲も高まってきます。



例文を準備して、子ども達が考えやすいようにしていました。先生の例文のお陰で、たくさんの子が発表することができました。

資料②

互見授業について (本年度)

- ②の1 . . . 互見授業の提案
(指導教諭)
- ②の2 . . . 校内研修資料
(研究主任)
- ②の3 . . . 学力向上プラン 授業改善
取組指標 (学力向上担当)
- ②の4 . . . 授業を参観した感想
(校長より)
- ②の5 . . . 互見授業の写真
T児の活躍 (3学年算数)
- ②の6 . . . 新採3年目教員の授業
板書比較 (2学年道徳)

令和元年度 高田小学校 互見授業について

1. 目的

- キャリアステージに応じて自己の授業力を高め、高田小学校の児童の学力向上を目指す。
- 校内研究の成果を平素の授業に生かし、研修の日常化を図る。

2. 昨年度からの経緯

昨年度は、ベテラン・中堅教員が若手教員の希望に沿って、年間10名の教員がウェルカム授業を公開した。(成果は、昨年度通信「チーム高田」に記す)そこで、本年度は若手にも授業観察の成果も踏まえ、中堅・ベテランとともに授業を公開して互いに学び合う機会としたい。この取組は、大分県公立学校教員育成指標および大分市学校教育指導方針にも基づいたOJTである。

ただし、公開する授業は校内研究の枠組に沿ったものとする。それは、我々の取組が、高田小学校児童の成長に還るべきものだからである。そのためには、ある程度の「指導をそろえること」が大切になってくる。学校全体でぶれない指導を行うことで、学年や担任が変わっても子ども達は安心して学べるため、安定した学校生活を推進することができる。

さらに、全教職員が同じ方向を見て授業力を磨き合うことは、例えばベテランの知恵や経験、中堅のアイデアや行動力、若手のやる気を、互いに学び合うことにもつながっていくと思われる。

3. 授業期間

9月 ～ 1月下旬 まで



(2の2公開授業)



(2の3公開授業)

4. 授業の枠組

① 教科 校内研修の対象教科である算数および道徳とする

② 公開の力点 以下のようなこれまでの指導の積み重ねを大切にして公開する。
下記の力点に自分なりの工夫を加え、公開しても構わない。優れたものは逆に校内研修に取り入れたいと考える。(7月25日 第6回校内研修資料を参照)

☆板書の構造化 「めあて」「課題」「まとめ」等を位置付ける。
「深める問い」「ふりかえり」「練習」も入れられれば入れる

☆ノート指導 「1時間で見開き2ページ使用する」、「課題は青囲み」、「自分の考えは黒字」、「書き足し・修正は色を変えて」、「まとめは赤モコモコ」等

☆ペアトークとホワイトボード

自分の考えを持たせたり人と比べて見直したりするために、ペアトーク(PT)やホワイトボード(WB)を積極的に活用する。「いつ(タイミング)」、「なにを(内容)」、「何のために(目的)」を考えて活用する。
説明のさせ方も1つ1つ児童に積み上げて(話型、図や式や絵等の活用)ホワイトボードは板書にも活用できる。

5. その他

まだ互見授業を行っていない者は、実施予定時期を教頭に連絡する。後日、管理職や研究主任、学力向上担当と相談して実施日を決めたい。

第6回校内研修

R1.7.25

1. ミニ研修

算数用語について（是松先生より）

2. ノートの利用のさせ方とホワイトボードについて

◇ノートについて

ノートに書く項目

- 日にち、単元名
- 問題
- 式 答え
- 課題（㊦㊧青囲み、文字は鉛筆書き）
- 自分の考え
- (友だちの考え、正答など必要に応じて)
- まとめ（㊨赤もこもこ、文字は鉛筆書き）
- (練習問題)

問題文はノートには書かないで
あらかじめ印刷したものを貼るなど
時間をかけないよう工夫する。

定規を使わずに済むよう
にまとめはもこもこ囲み

<ノート> 1時間で見開き2ページ

6/1 たしざん

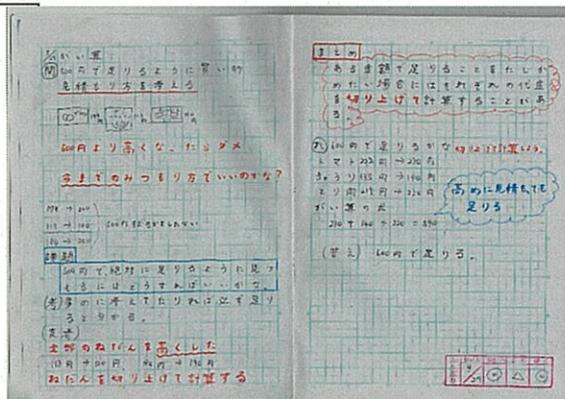
課題（青囲み）

友だちの考え
正答（必要に応じて）

式
答え
自分の考え

まとめ（赤もこもこ）

練習問題



各学年でノートの使い方について話し合い、このパターンを原則として学年で統一してください。

◇ホワイトボードについて

- 説明は書かせない（口で説明する）…「まず」、「つぎに」など話型の活用と練習を。
- 図、式、絵（低学年）などを端的に。
- 大きく書く指導を。
- 単元によっては、ボードに貼って使う小物（図形や書き込みできる線分図、数直線など）を用意して渡す。

目標（例）：ノート5分 ボード3分（学年で設定）

話し合うこと①

- ・ ノートにどこまで書かせるか（学年部でそろえる）

自分の考えは必ずノートに位置づける。
そのうえで、友だちの考えや深める問いなどをどこまで書くかを考える。

<共通理解事項>

- 自分の考えはノートに残す。
考えが変わっても、前の考えは消さない。
（色鉛筆や記号の活用…学年でそろえて）
- 正答をノートに位置づける。

今日のベストアンサー、㊦など、クラスで共通

化して皆で確認してノートに位置づける。（ここだけは必ず書く、などの指示を出し、時間の確保をする）

- ある程度の速度で書けるように練習をする。

話し合うこと②

- ・ ホワイトボードの活用のしかた

ノートに考えを書くことはあくまでも最優先。
そのうえで、ホワイトボードをどう使っていくか。
使わない（使えない）単位には、代わりにどんな手立てや工夫、教具がいるか。
単元ごとに活用のしかたを考えて学年1枚ご記入ください。

→8月6日までに入力をお願いします。

推奨—研修—31年校内研修—ホワイトボード学年カリキュラム
（手書きの場合は7月中にできたらください）

<共通理解事項>

- ・ ペアトークの際に自分の考えを説明するために使う。
（ボード記入が間に合わなくても、この活動はノートでも可能）
- ・ 全体での出し合いの場で、黒板に貼って説明に使う。

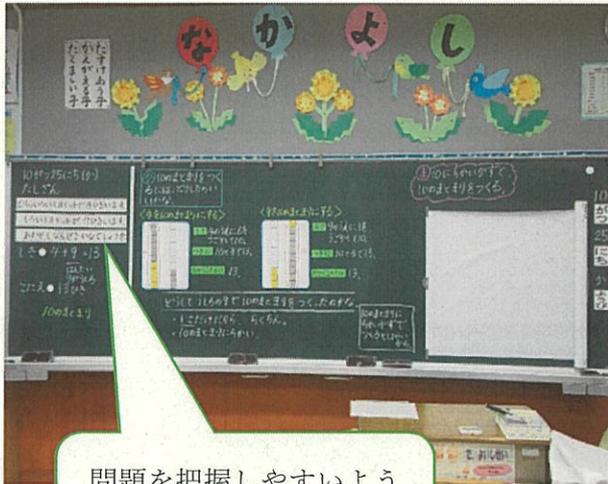
2学期に向けてしておくこと

- ・ 教科書の問題を児童用ノートに貼るためのコピーの準備（1.2単元分だけでも）
- ・ 計算タイム用の問題の印刷
- ・ 互見授業・学年部研（低・高学年）の計画 など

3. 校長先生より

(資料)

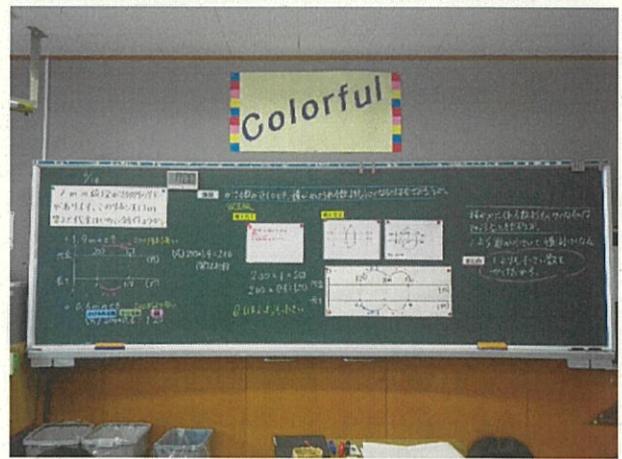
ホワイトボード活用の仕方について



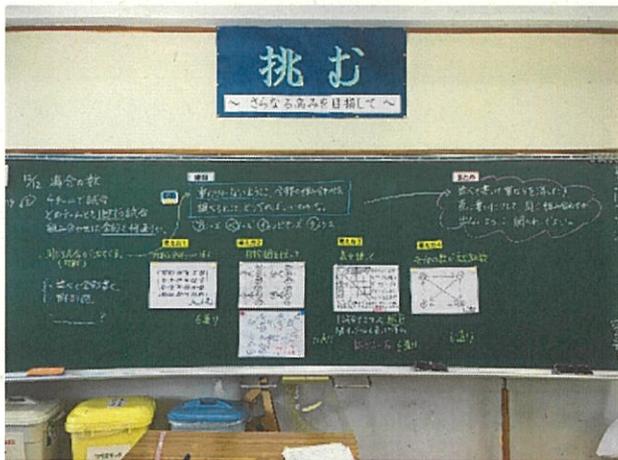
問題を把握しやすいように3行に分かち書き。



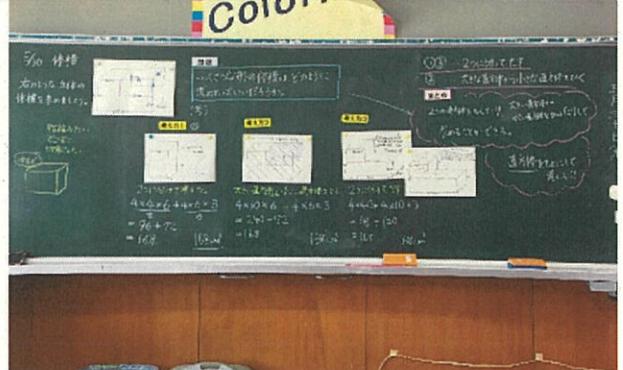
低学年の出し合いの場面 (ジオボードを使用)

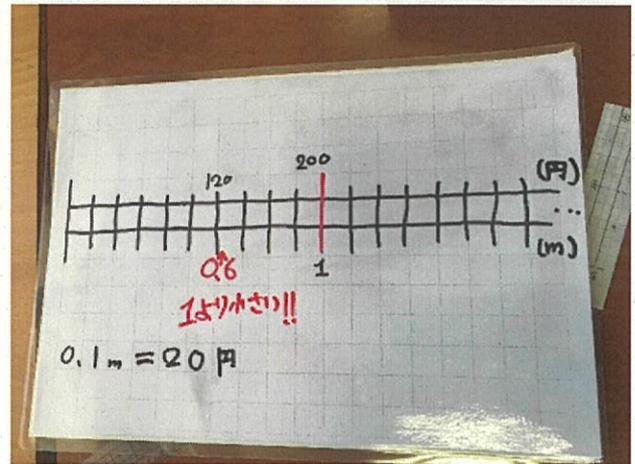
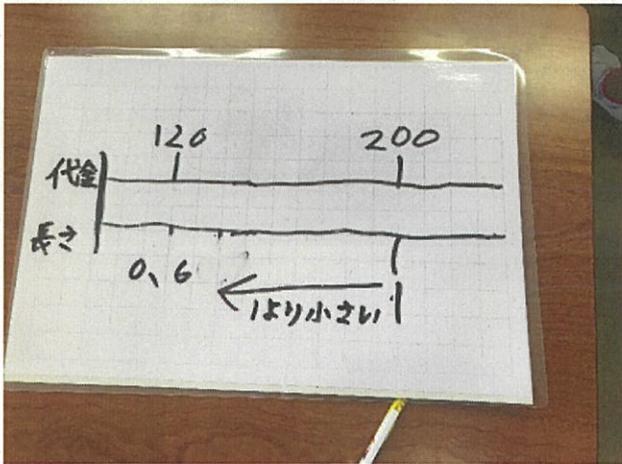
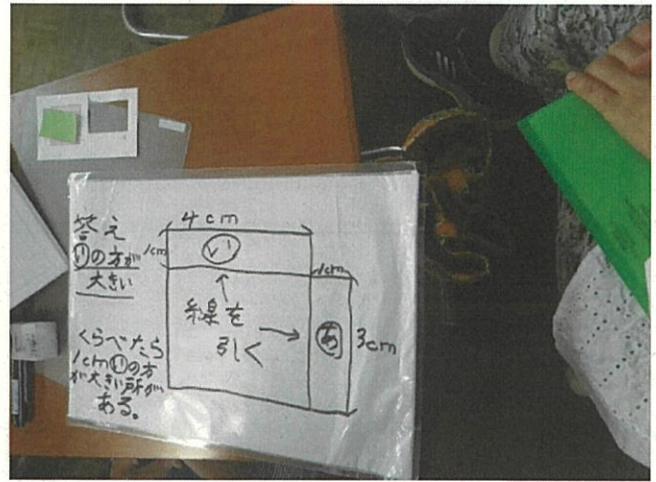
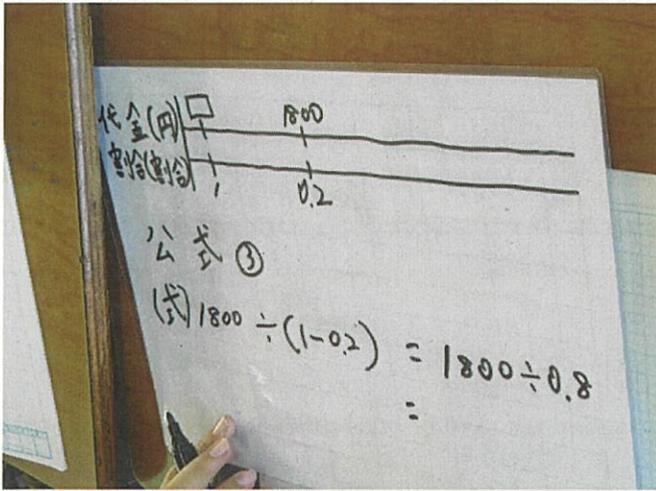


↑児童のホワイトボードと大きく見せるための模造紙を併用



↓ホワイトボードの代わりに、B4用紙に元の図形を印刷したものを配布して書き込ませた



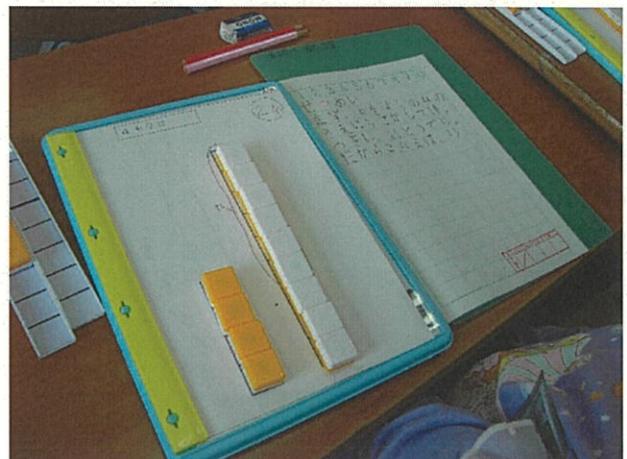


中学年・高学年 線分図、数直線、式などをわかりやすく絞って書けることを目指す

2年生 ホワイトボード

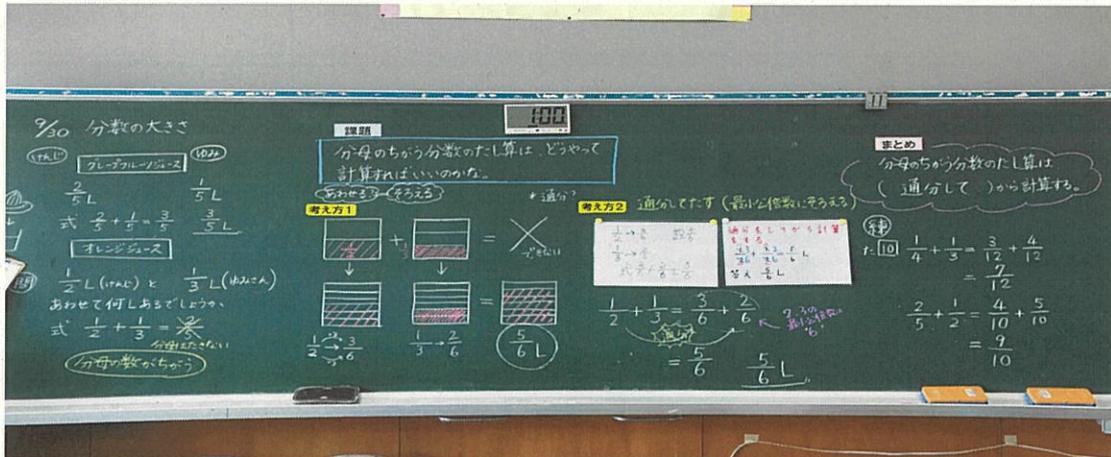


1年生 ジオボード
 この時は、ボードにワークシートや補助シートを挟み込んで使用



単元名 分数の大きさとし算ひき算

板書写真



3つの観点

①学習の流れの見通しを持たせる <見通しの持たせ方>

- ・既習事項（分母は足さない、同分母分数は分子だけを足す）とのちがいを明らかにしたことで、「分母がそろっていない」という困りが明らかになった。
- ・分母がそろっていないと計算できないから「分母を合わせる→そろえる」ことで計算できるのではないか、という見通しを持たせた。その結果、「通分するのかな？」などといったつぶやきが子どもたちから出された。

②考え方の違いを明確にする <考え方の違いを理解させる手立て>

- ・本時の学習では、誤答は出なかった。
- ・「通分して分母を6にするという考え方」を図で表したもの（考え方①）と式で表したもの（考え方②）を出し合った。
- ・考え方①については、ボードの図が小さく、見にくかったため、こちらで大きく板書した。

③考えを伝え合う場の工夫をする <話し合いの場の工夫><話し合いが深まる手立て>

- ・自分の考えを持たせるために、ペアトークを自己解決の途中で行った。途中で困っている友だちに対してアドバイスするように促した。
- ・考えを深めさせるために「2つの考え方のどこが同じか」と問い、自由にペアトークで話をさせた。2と3の最小公倍数が6だから通分して分母を6にして計算すればいい、ということを図からも式からも理解させた。

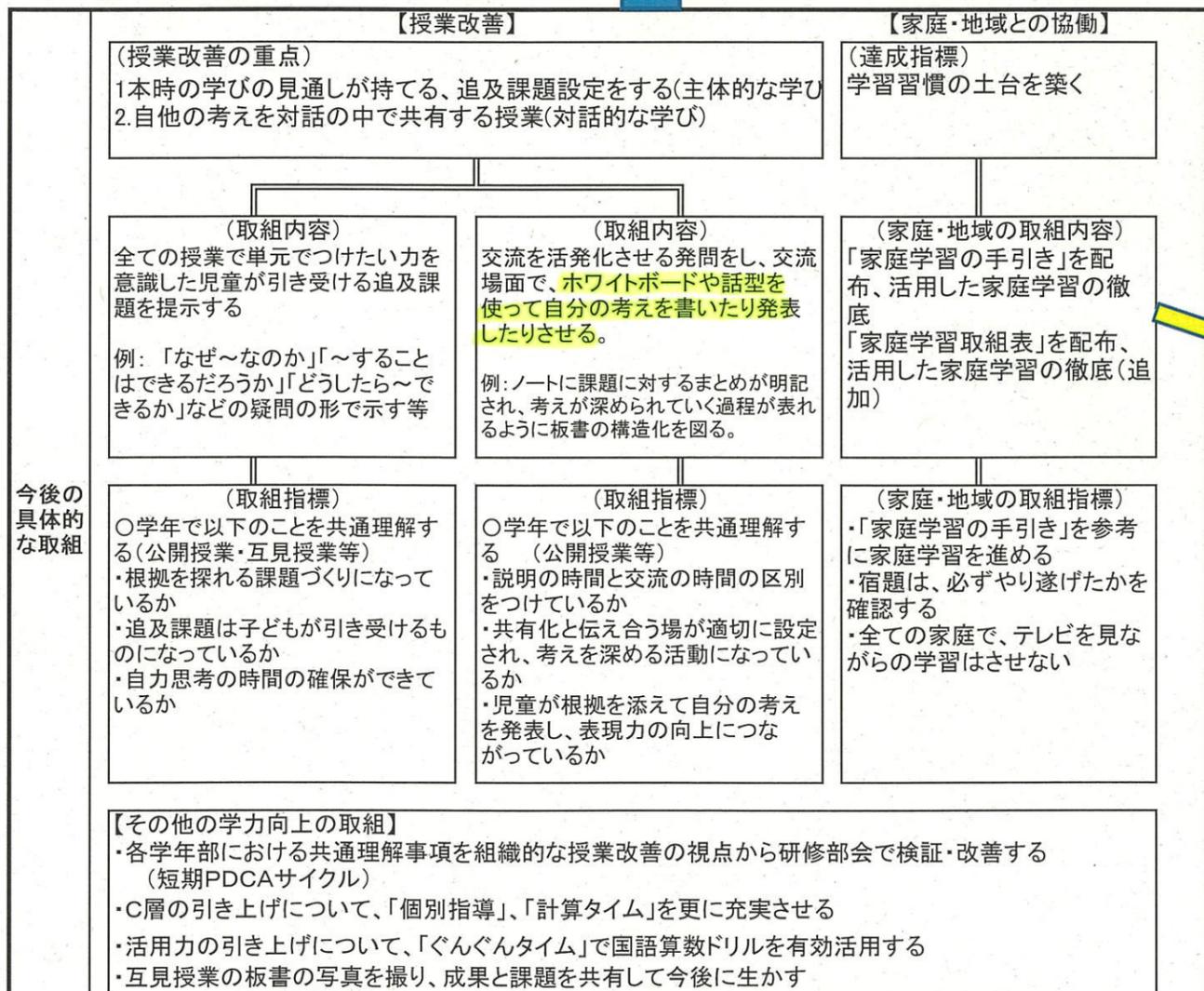
成果と課題

異分母同士の計算は初めてであったが、そこを焦点化してから課題に入ったことで「分母をそろえるにはどうすればいいのか」という困りを共有させることができた。図と式で出された考えの共通化を図ったことで、通分して計算するという方法を目で見て理解させることができた。

課題としては、深める問いを板書上に位置づけられなかった。時間的なゆとりがなく、言葉のみでの発問になってしまったので、まとめの上部に位置づけが必要であった。また、自分の考えを持ってない子のためにめもり入りのヒントカードなどを用意しておけばよかった。

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 H29全国調査では平均値・目標値を概ねクリアしているが、全体的に応用力の向上と低学力層の基礎基本の定着に課題がある。 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 これまで、ホワイトボード等を使った交流学习の形態は定着しつつあるが、主体的、対話的で深い学びまでは到達しておらず、定着度の個人差に課題が残る。	1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 全体的には平均値・目標値をクリアしているが、理解力の差があるので、成果につなげるために補助的な指導ができるように体制づくりの必要がある。 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 個別指導で対応しているが、保護者への働きかけが十分とはいえない。
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 研修部会を中心に算数科におけるUD化の校内研修を充実、深化するとともに、年3回の提案授業の研修を軸にして短期PDCAサイクルで検証・改善を繰り返し取組が進んできている。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 「豊かな心」、「健やかな体の育成」と相関を意識し、「生徒指導の3機能」を取り入れた授業改善に組織的に取り組み、児童の主体的な学びにつながる授業実践に努めている。	

学力に関する達成指標	【達成指標】教師の発する言葉が精選され「 根拠を探れる課題 」、「 児童の交流の場 」が適切に設定された授業の実践 【検証指標①】追求課題について主体的に取り組み 自分の考えを持つ児童80%以上 【検証指標②】ペア、グループ等の交流活動で 自分の考えを出し、比較検討することで、深めることができた と答える 児童70%以上 【検証指標③】学期ごとの観点別到達度テストで、 平均点80点以上の単元を、80%以上(追加)
------------	---



算数アンケートの結果(%) R1 6月実施

	H30		全校児童(%)						
	1学期末	2学期末	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全
①算数が好き	85	77	84	89	91	82	80	93	87
②自分の意見をノートに書ける	88	88	86	88	84	93	87	92	88
③自分の考えをペアやグループで言える	78	84	77	75	75	93	89	90	83
④自分の考えを全体の前で言える	56	57	75	65	51	38	39	49	53
⑤友だちの意見を聞いて比較・納得できる	90	84	75	92	79	95	92	87	87
⑥⑤のときに気づきや質問を伝える	56	54	55	67	49	59	38	67	56

★【検証指標①】【検証指標②】ともに、アンケートの②⑤から目標値を超えていることがわかる。
★児童の数値が高いことから、児童のモチベーションの高さや達成感がうかがえるが、発信しただけで満足し、質問や比較検討の意見など深めあう活動が定着しているとはいえない。引き続き授業改善を行い、主体的な学びを追求すべきである。
★④⑥のように、表現することに課題があり、対話的で深い学びに向けた努力が急務といえる。2学期は、全ての教科において、自他の考えを対話の中で共有する授業を心がけるとともに、児童に「発信する楽しさ」を体得できるような単元計画を立てて実践すべきである。

算数テスト結果
【検証指標③】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全
全単元の平均(点)	94点	79点	84点	80.5点	80点	86.5点	84点
平均点80点以上の単元割合	100%	53%	88%	60%	63%	88%	75%

★「時刻と時間」や「大きな数」「体積」などの単元の平均点が低い傾向にある。2学期以降は、児童の苦手とする単元において教材・教具や掲示物などの工夫をするとともに、家庭学習やスキルタイムでの補充を行うことで、C層の児童の減少をめざす。

「家庭学習取組表」の結果に見る家庭学習の時間(分)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年×10+10ができたか	○	○	×	×	×	×
読書の時間(分)	10	13	13	13	13	15

教員アンケートの結果

	担任平均(満点5)
①根拠を探れる課題づくりになっているか	
②追求課題は子どもが引き受けるものになっているか	
③自力思考の時間の確保ができているか	
④説明の時間と交流の時間の区別をつけているか	
⑤共有化と伝え合う場が適切に設定され、考えを深める活動になっているか	

本年度の互見授業のスタイル(規定)とリンクする部分には、**〇**をつけている。

・1学期末のC層(単元末テスト50%以下)の児童(算数)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
1人	4人	5人	4人	2人	1人



互見授業を観察して

観察者【 】

授業を公開された 先生へ

お疲れさまでした。今日は、これまで観た授業の中で一番よい授業でした。もちろん月曜日のプレ授業(3の1)の時からも、格段にシャープで無駄が少なくなっていました。これまでの教材研究や指導案審議、プレ授業が結果に結びついていたと思います。これからも成長を期待していますので、よかった点と考えてほしい点を述べておきます。参考にしてください。

【よかった点】

- 教材研究がしっかりとできており、授業者がはっきりとねらいをもっていました。それで、子どもたちの発言に対する切り返しや、2つの考えの取り上げ方が的確でした。
- 板書もうまく活用していました。「分母をたす」「分母はたさない」、黄色のチョークで囲んで考えの違いを焦点化する場面など、見える化ができています。
- 半具体物のマス図を配っていたので、子ども達が考えやすかったです。ただし、一人2枚ではなく、3枚渡しておいて必要ならば使えるようにしたほうが、さらに考えやすかったと思いました。

【考えてほしい点】

- 授業のねらいとして、「 $1/5 + 2/5 = 3/5$ 」や「分母同士はたさない」を理解するだけでなく、「 $1/5 + 2/5 = 3/10$ 」としてはいけない理由や「どうして分母をたしたらいけないのか」まで考えさせたのは、より深い学びになるのでよいことだと思います。塾や参考書で知識を持っている子どもは、そこまで考えられていないでしょう。ただし、その答えを先生がもっていなければなりません。その答えとは、なんでしょうか？ 私は、「分母をたしてしまうと、もともになる分数がちがってしまうから」と思います。そのため、式の答えが $3/10$ だと $1/10$ の3つ分になり、 $1/5$ の3つ分にはならなくなることに気づかせることが決め手になります。10等分したマス図と5等分したマス図を比較して、そこに気づかせたかったと思いますが、そこまでいけずに残念でした。ということは、まだまだ無駄があり授業改善ができるということです。とてもおしかったですね。

ともあれ、新採用として立派な授業でした。○児のすばらしい発言を引き出したのは、まぎれもなく先生の努力の成果です。他児も授業に集中しており、いつの間にか無駄な声も聞こえなくなっていました。子どもたちは正直です。「真理は、子ども達自らが導いていくもの」と言われています。また、よい授業には、よいドラマが見られます。これからも、自己の授業力を磨き続ける教師であってください。今後の成長を、大いに期待しています。先生や学年部の先生方への感謝の気持ちも忘れずに。



互見授業を観察して

観察者【 】

授業を公開された 先生へ

先生、お疲れさまでした。1学期から新しい道徳を目指して取り組まれてきたことが伝わってくる授業でした。今後もさらに授業力を高めてほしいので、率直な感想を述べさせていただきます。

【いいなと感じた点】

- 「課題」がよかったと思います。「セーフと言えたのはどうしてかな？」の前に「なやんだけど」を付加したことで、焦点がせばまり何を答えたらよいか分かりやすくなりました。ただこれについては、改善点もあります。(詳細は下記にて)
- 図(円)を使って、「セーフ」と「アウト」の迷う気持ちを見える化したことはわかりやすかったです。ただ、これも良太の葛藤が正しく捉えられていればもっと効果が上がったと思います。(詳細は下記にて)
- 今回が2回目の道徳ということで、1学期からこれまでにしっかりと道徳の授業に取り組んできたことがわかりました。
- 子どもが書く作業を行っている際に、子どもたちにこまめに指導や助言(ヒント)を行いながら机間指導をしていました。(出会わせたい考えの子には、発表を促しておくとういす)

【考えてほしい点】

- 1回目の発問「なぜ光一さんの見方をしたのかな？」に対して子どもたちから「仲良しだから」や「親友だから」という声が出ていましたが、それらを取り上げないで2回目の発問「あゆ美さんのチームにセーフと言えたのはどうして？」をしました。その後、「簡単にセーフと言ったのかな？」と切り返して「良太はなやんだ？」に着目させようとしていましたが、子どもたちは、「良太が何に悩んだのか」を捉え切れていなかったように見えました。良太の葛藤は、「公正・公平な態度を優先(セーフ)」と「光一との友情を優先(アウト)」の間で揺れていたことを、しっかりと押さえてほしかったです。そのため、1回目の発問で出させた良太と光一の関係(仲良し、親友)から、「親友を優先しないで、あゆ美さんのチームにセーフと言えたのはどうして？」というように2回目の発問につなぐ必要があったと思います。
- 最後は、「もし審判が自分だったら、良太のようにできるかな？」を問うてほしかったです。自分のこととして置き換える場面がないと、「良太はすごかったね」で終わってしまいます。自分だったら「できそうだ」や「できないかもしれない」が充分出た後なら、ワールドカップの審判の話も1つの心の物差しとして紹介する価値が出てきます。審判員の久保さんの心構えから、「光一さん達だけがうれしい判定」や「あゆ美さん達だけがうれしい判定」ではいけないことを子どもたちがつかんでいけるとと思います。

【その他】

- 授業のテンポはよかったです。範読は少々早口でした。また、開始・終了の号令は児童が行った方がよいのではないかと思います。是非半年でそろえてください。(私は、ある程度学校でそろえる方がよいとも思っています。)

「思ったことがたくさん聞けるし、みんなに聞いてもらえる。」そんな道徳を目指していきます。



互見授業を観察して

観察者【 】

授業を公開された 先生へ

本校がめざしている互見授業のお手本のような授業でした。ありがとうございます。その理由として、「積み重ね」が十分に感じられる授業でした。

板書の工夫、ノート指導、ペアトーク、ホワイトボード等がしっかりと定着していました。これまでの取組があったからこそでしょう。

昨年とも思いますが、先生は、子どもを鍛えることが上手ですね。子どもの作業の様子を見ていると、素早い取り掛かり、手際よさ、集中力などからそれがわかります。机間巡視をしながら、よく手数をだして(子どもにアドバイスを送って)いました。今日の授業だけでなく、平素も授業を大切にされていることがわかります。

授業の導入の場面では、後ろから見ていても子ども達の「今日はどうもお勉強をするのかな？」という強いワクワク感(期待感)が伝わってきました。紙芝居のような問題提示の工夫もよかったです。「読む」「書く」の苦手な子どもにも十分理解ができ、意欲も高まっていました。

最後のまとめ「じゅんばんに ひげばよい」も、課題「かずが2かいへるときは どうすればいいかな。」と呼応していたよかったです。式と図、ブロックの関係のおさえに少し時間をとられましたが、先生はいつも到達点をはっきりもたれているので、サクサクと進めてもよかったのではないのでしょうか。

(例えば)

みんなの考えから、式でも、図でもブロックでも考えられることがわかったね。どの考えも引いているけど、どうひいているかな。「はじめに○ひき引いて」「そのつぎに○ひき引いて」の順序を表す言葉に着目させて、「じゅんばんにひいているよね」「だから式にすると、 $9-2-3=4$ とかくんだよ」アドバイスになりませんが、上記のような進め方はどうでしょうか？

大変おつかれさまでした。残りの半年もよろしくお願ひします。



互見授業を観察して

観察者【 】

授業を公開された 先生へ

昨年比去年先生は、先生の授業スタイルが、大きく進化してきていることを感じました。ご自分でお気づきでしょうか。また、子どもたちの様子から、これまでの積み重ねも伝わってきました。今後、若手教員を指導する立場になられることを考えて、少しアドバイスも入れています。

【板書の構造化について】

- 「課題」と「まとめ」の整合性が、ある程度できています。スタートとゴールがつながっていました。
- 問題文を提示した後、見通しを持たせる場があるといいなと思いました。これまでに学習したことを生かして、自力解決の場につないでいけることが目的です。かけられる数が2ケタの際にひっ算を使ったことを想起させて、「かけられる数が3ケタになってもひっ算が使えそうだ」という見通しを持たせられます。
- 考え方3で、半具体物であるお金の図を取り上げていたのは、わかりやすくてよかったです。欲を言えば、考え方2と $3 \cdot 1$ を比較して、ひっ算のよさや便利さも取り上げると考え方1や3を出させた意味がさらに出てきます。

【ペアトークとホワイトボードについて】

- ホワイトボードはかなり書けていました。ペアトークも、ある程度できてきています。「相手の考えがわかるように聞こう」や「自分の考えを相手がわかるように伝えよう」という姿が見られれば充分です。それを実現させるための工夫をこれからも探ってください。ペンが薄い子やつかない子がいたのでご配慮ください。

【その他】

- 練習問題は、かなりできていました。答え合わせをしながら次の問題を書いたり、先生が「正解」と伝えていたりして、少し急ぎすぎたかなと思いました。位をそろえていることなどをほめていたのは、よかったです。

これからさらに進化されていくことでしょう。楽しみに期待しています。ただし、あまり型にはめすぎると算数嫌いをつくってしまうので、子どもの姿から教師が学ぶことも忘れずにいてください。お疲れさまでした。

1年生の互見授業



相手に反応をもらえるようにペアトーク



ホワイトボードを使ってペアトーク



考え方2の児童の発表（ブロックで説明）



考え方3の児童の発表（図で説明）

3年生の互見授業



ペアトークで自分の考えを伝え合う



他児の考えを図で説明するA児



ホワイトボードで考えを比べる

A児は自己肯定感が低下した状況にあった。
 しかし、この授業では他児の考えを自分なりに説明し、それが周囲から大いに認められたことで自信を持つことができた。（写真上）

その後も、トークンシステム等の支援方法を職員で共通理解し、自己肯定感をより高められるよう、組織的に支援を続けている。

資料③

アンケートによる

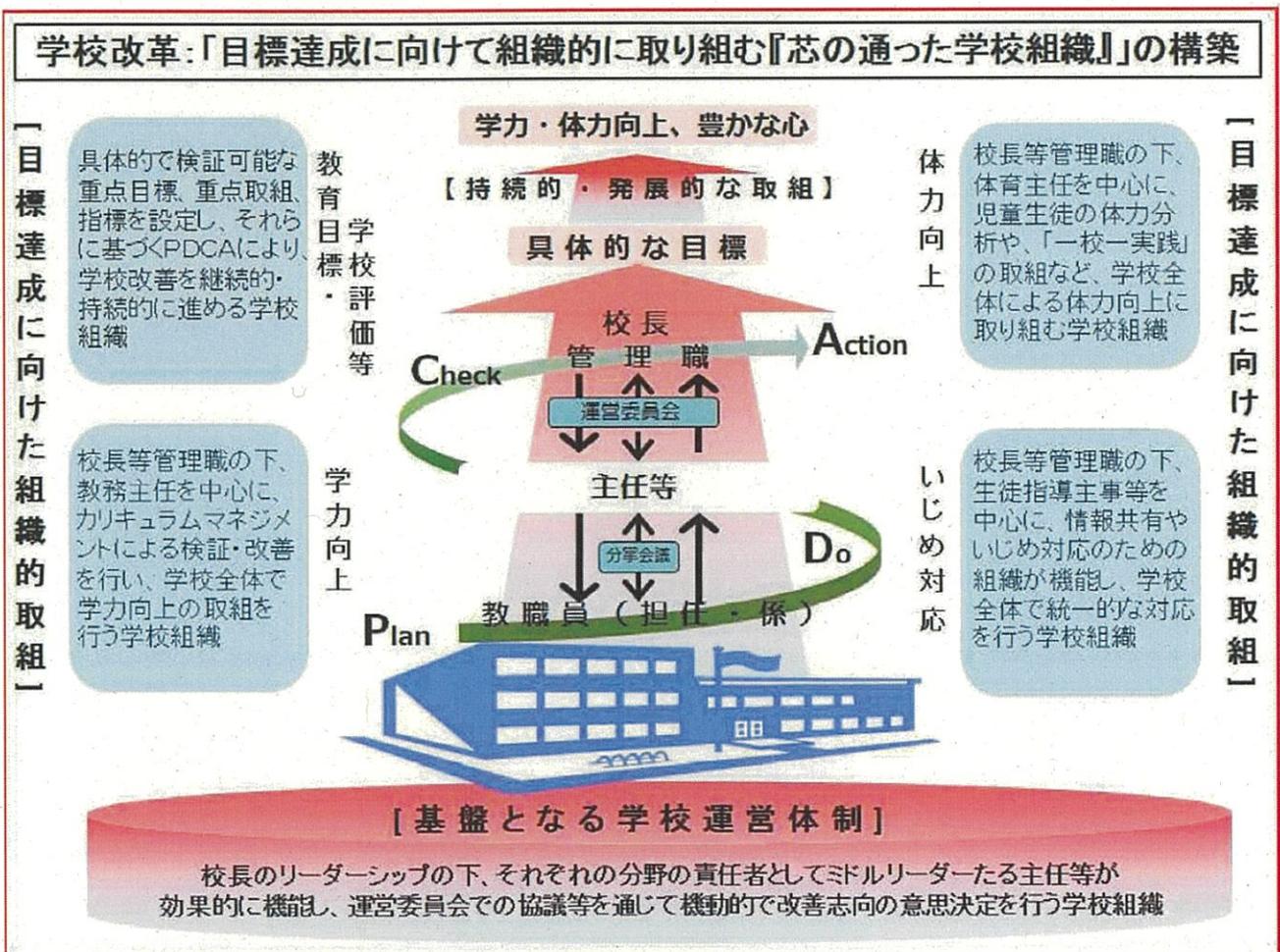
自己や自校組織の振り返り

- ③の1 . . . 校内ミドルリーダー
研修の資料
- ③の2 . . . 教員組織所属意識尺度の
解説とアンケート
- ③の3 . . . 教師の職業生活自己分析
尺度の解説とアンケート

【研修の内容】	
1. 研修の目的	4. 説明（キャリア形成と支援）
2. 演習（アンケートの自己分析）	5. 意見交換
3. 説明（組織的な取組、学校運営体制等）	6. 終わりに

1. これからの学校組織に求められていること

- ①目標の達成に向けて組織的な取組を行う学校（学校全体で検証・改善を繰り返す）
- ②上記の取組を行うための基盤となる学校運営体制が構築されている学校組織（ミドルリーダーたる主任が効果的に機能できる：ミドルアップダウン）



2. 「目標達成に向けた組織的な取組」の必要性

①持続的・発展的に学校改善を進めていくため

- ・子どもの力を伸ばすために、前例踏襲に陥らず学校の実態から重点課題を定め、具体的な重点目標や取組を設定し優先順位や時期によるメリハリをつけて進めていく。そして、行った取組を検証し次の活動につなげるという検証・改善を繰り返すことが必要である。（PDCAサイクル）

②指導力向上や問題等への早期対応を図るため

- ・教員は通常一人で授業を行っており、先輩や同僚の教員から学ぶ機会が乏しいため、指導力の向上が図られにくい。このため、学校は、課題を設定し、互見授業や公開授業、校内研修といった授業を見合う中で指導力を高める機会を組織的に設ける必要がある。
- ・いじめや不登校に対しては、早期発見・早期対応が重要である。担任任せになり、兆候の見逃しや抱え込みにならないよう、情報交換や主任等による全体への目配り、管理職への報告などの組織的な対応が必要である。

③学校の教育効果を高めるため

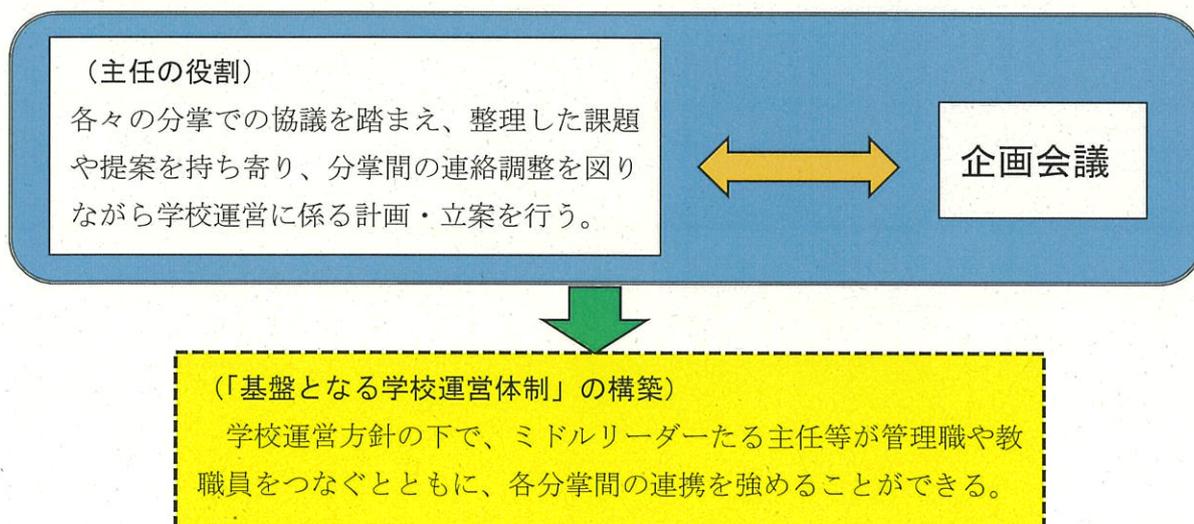
- ・例えば、体力向上に1つの学級だけでなく学校全体で取り組むことで、子どもの間に連帯意識や切磋琢磨する気持ち生まれ、生き生きとした活動になる。また、いじめ対応において、教職員全てが些細ないじめにも即座に毅然と対応する学校と各教職員の指導方針がバラバラな学校とでは、指導の効果が大きく異なってくることは明らかである。
- ・教職員にとっても、目標に向かって目的意識を一致させて役割を果たそうと努力する時、意欲は大きく高まる。逆に、目的意識が希薄な集団や、「がんばろう」とする者に冷ややかな視線が送られるような集団では意欲は減退し、たとえ一定の結果を出したとしても充足感は得られにくい。目標に向かって組織的に取り組むことは、教職員の意欲や充足感を高め、その取組のみならず学校教育全体の活発化をもたらすことにつながる。

3. 「基盤となる学校運営体制」の必要性

統一的な教育方針の下で一体的な教育活動を進める体制がなく、教職員が各々の価値観に従って行動するような組織では、学校の目標達成に向けて組織的に取り組むことはできない。

だからといって校長が強いトップダウン型の管理職として一方的に指示を出す体制では、教職員の学校運営への参画意識が欠け、結果的に目標の達成が困難になる。このため、学校のミドルリーダーたる主任等を任命して、主任がそれぞれの分野の責任者としてリーダーシップを発揮する体制が必要となる。

一体的な学校運営を行うためには、分掌相互の連絡調整を行いながら意思決定を行うことが必要であり、現在は企画委員会を設けている。



このような組織的な体制があれば、管理職や教職員に人事異動があっても、それまでの取組を持続し発展させていくことが可能である。

4. 教員のキャリア形成と支援

① 4つのステージ

教員の採用から退職までを、大きく4つのステージに分けて紹介している。(別紙参照) もちろん、あくまでも参考であるが、経験の年数を重ねるにつれて、学校での役割や学ぶことが変化していく。責任も重くなる面もあるが、やりがいや期待も大きくなっていく。そこに喜びや楽しみ、手ごたえといったプラスの面が出てきてほしいと願っている。

② キャリア(年齢等)に応じた支援

○ 20代教員の心理発達の理解と支援

(アイデンティティの状態の類型例)

- ・自己確立タイプ
- ・理想模索タイプ
- ・親の枠組み志行タイプ
- ・現状満足志向タイプ
- ・自己拡散タイプ
- 等々

現在、学校のベテラン教員は近代工業化社会で育った人であるが、20代の教員は知識基盤社会に育った人達である。そこには、考え方や価値観、感情の生起の仕方に大きな違いがある。近代工業化社会では、成人期への移行の標準パターンが存在していた。就職、経済的独立などが主要なイベントで、これらを通することが成人につながり社会にも認知された。この時代に育った人は、近代工業化社会の常識や価値観がある。

知識基盤社会は、インターネットを介して情報や知識が大量に流通し変化することが常識となった社会である。自分で自分の生き方を構築し、成人期への移行の標準的なパターンは消滅し、能動的学習能力や生活設計のスキルが生涯に渡って継続的に必要となってきた。その結果、青年期は長期化して、成人期との境界がはっきりしなくなってきたのである。したがって、現在の学校のリーダーの時代の考え方や行動パターンが、20代の教員にはストレートにモデルにはならないのである。

(学校現場でよく見られる例)

- ・平均的遂行タイプ
- ・勤務状況苦戦タイプ
- ・ギャップ苦悩タイプ
- ・教員プロトコルタイプ
- ・アンチ教員タイプ
- ・熱中、充実タイプ

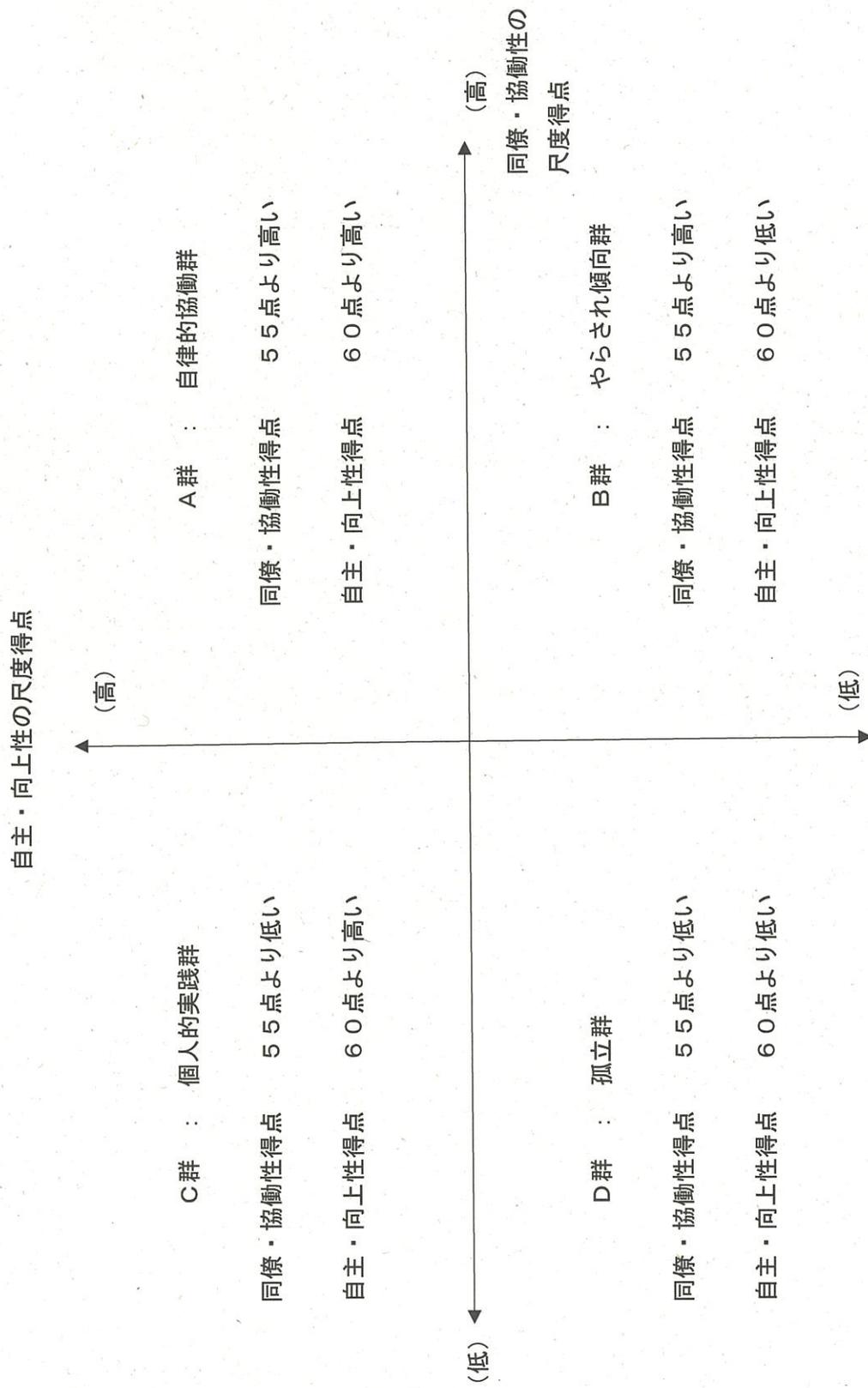
当初描いていた自分のイメージと現実の学校現場との間にリアリティショックを受け、どう動いたらよいか戸惑うことが多い。何かを教えてもらいたい場合には自分から礼を示して積極的に同僚に働きかけなければならないというルールもわからないので、一層動けなくなっていく。

若い教員が育たないような環境で、子ども達だけの発達が促進されるとは思えない。教育の場は、関わる人間同士の育ちあいの場「共育の場」である。建設的な教員組織は、所属する教員個々のメンタルヘルスを良好にするだけでなく、職員の発達(学び合い、支え合い)を促進し、それが関わる子ども達にプラスの影響を与えていくと考える。

【支援のポイント】

- ☆ 教員としての仕事の仕方・前提となる教育技術を獲得させていく。
- ☆ 教員としてのアイデンティティを確立できるような場面を設定する。
 - ※ メンタリティに無理のないように進める。

教員組織所屬意識尺度 解説



同僚・協働性尺度

以下に、日ごろ、先生方が教育実践において感じやすい事柄をあげてあります。ここ1, 2か月の間で、これらの項目に対して、どの程度感じましたか。その該当度についてあてはまる数字に○をつけてください。なお、数字には次のような意味があります。

5:	とてもあてはまる
4:	ややあてはまる
3:	どちらともいえない
2:	ややあてはまらない
1:	全くあてはまらない

- 1 学校行事では運営の流れ・役割分担の確認だけでなく、教育効果が高い対応の仕方についても教員間で共通理解がなされている 5-4-3-2-1
- 2 子どもの学力の定着に関する学校全体の方針が、教員間で共通理解されており、各授業にいかされている 5-4-3-2-1
- 3 教育目標の解釈や具体化について教員間で意見の交換が定期的になされ共通理解がなされている 5-4-3-2-1

- 4 校区の地域性や特色などについて、校内で見えが交わされ教員間で統一的な理解がなされている 5-4-3-2-1
- 5 校内研修の計画に関して、学校全体の問題を鑑みて必要度の高い内容を教員間の共通認識のもとで設定されている 5-4-3-2-1
- 6 必要とされる子どものしつけあるいは子どもに守らせるべき規範について校内の教員間で明確な共通理解がなされている 5-4-3-2-1
- 7 生徒指導の基本的な考え方や具体的な対応方法について、教員間で共通理解が成り立っている 5-4-3-2-1
- 8 校務分掌の各役割は、学校全体の運営に位置づけて教員間で各分掌の意義と役割内容が共通理解されている 5-4-3-2-1
- 9 教員としての行動のあり方や態度などについて、教員間で一定の共通認識がある 5-4-3-2-1
- 10 給食や掃除の指導のあり方について、学校全体として基本的な部分は統一がはかられている 5-4-3-2-1
- 11 異なる校務分掌間での仕事の調整や連絡は定期的に行われ学校全体の運営の流れがよくなるように努められている 5-4-3-2-1

- 12 各クラブや部活動委員会の指導方針は、学校全体として基本的な部分は統一がはかられている
5-4-3-2-1
- 13 学級活動や学級経営の基本方針に関しては、学年会や職員会などの会議の場で話し合わせ、教員間の共通理解が成り立っている
5-4-3-2-1
- 14 各教科の教材研究について、各教員の成果が学年会などの定期的な場で報告され、教材の解釈でも教員間の一致がはかられている
5-4-3-2-1
- 15 教科書以外の基本的な教材利用について、校内の教員間で情報が交換され基本的な部分は統一されている
5-4-3-2-1
- 16 個人研修の成果について、校内で報告したり話し合う機会が設定されている
5-4-3-2-1

合計点

自主・向上性尺度

以下に、日ごろ、先生方が教育実践において感じやすい事柄をあげてあります。ここ1, 2か月の間で、これらの項目に対して、どの程度感じましたか。その該当度についてあてはまる数字に○をつけてください。なお、数字には次のような意味があります。

- | | |
|----|-----------|
| 5: | とてもあてはまる |
| 4: | ややあてはまる |
| 3: | どちらともいえない |
| 2: | ややあてはまらない |
| 1: | 全くあてはまらない |

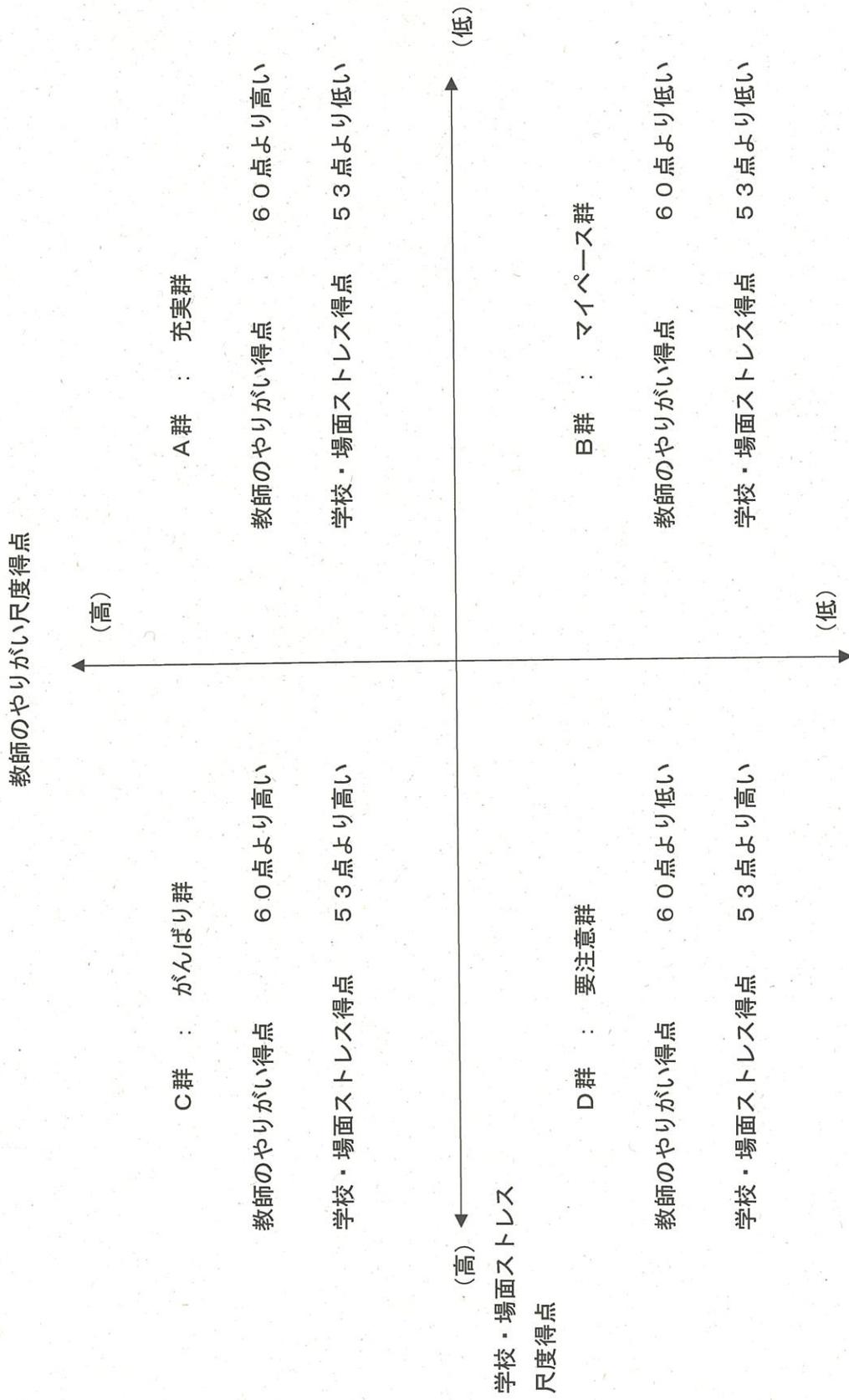
- 朝の会や帰りの会の指導では事務連絡だけではなく、子どもたちの関係づくり・集団づくり、規範の育成も行っている
5-4-3-2-1
- 学級経営については、学年団や同僚の教員と情報交換を自主的に行っている
5-4-3-2-1
- 授業の実践力を向上するため本を買ったり、他の研究校の資料を取り寄せたりしている
5-4-3-2-1
- 学級経営上の問題の対応や工夫について、同僚にアドバイスを求めたり、研修会に自主的に参加している
5-4-3-2-1
- 学校全体の実態や問題を意識して、校務分掌の仕事内容を考え取り組んでいる
5-4-3-2-1
- 授業の展開に独自の教材やプリントを使用するなど、自分なりの工夫をしている
5-4-3-2-1

- 校務分掌の役割内の会議では、全体の進め方について自分のアイデアをだしている
5-4-3-2-1
- 学校行事の参加には、行事の目的に沿い自分の学級の実態に応じた目標を定めて取り組んでいる
5-4-3-2-1
- 子どもの実態把握を深めるために、同僚たちと自主的に情報交換をしている
5-4-3-2-1
- 校務分掌の仕事は、例年の内容をより効率的・促進的になるように取り組んでいる
5-4-3-2-1
- 地域の特色や学校の子どもの特性にあつた授業の展開や対応を試みている
5-4-3-2-1
- 所属校の教員として望ましい行動や態度のあり方を意識して勤務している
5-4-3-2-1
- 校内研修で取り組んだ内容は、自分なりに本を読んだり関連する校外研修に参加するなどしている
5-4-3-2-1
- 学校目標や学年目標の中に学級目標を位置づけ、自分なりの工夫をしながら実践している
5-4-3-2-1
- 校内の授業展開のうまい教員の実践を参観したりして、授業の実践力向上の参考にしている
5-4-3-2-1
- 授業を同僚に参観してもらい、修正点を指摘してもらおうなど向上に努めている
5-4-3-2-1

合計点



教師の職業生活自己分析尺度 解説



教職のやりがい尺度

先生方が教師という職業に就いて、過去1年間での程度、満足感や充実感を体験したかあてはまる数字に○をつけてください。なお、数字には次のような意味があります。

- | | | |
|---|---|------------|
| 4 | : | よく経験した |
| 3 | : | ときどき経験した |
| 2 | : | あまり経験しなかった |
| 1 | : | 全く経験しなかった |

- | | | |
|----|--------------------------|---------|
| 11 | 子どもの学力が他の学級よりも優れている | 4-3-2-1 |
| 12 | 子どもの明るい笑顔や喜ぶ顔が見られる | 4-3-2-1 |
| 13 | クラスがまとまり、子どもと打ち解けた会話ができる | 4-3-2-1 |
| 14 | 子どもから慕われる | 4-3-2-1 |
| 15 | 職場に心を許せる同僚がいる | 4-3-2-1 |
| 16 | 子どもと話したり、いっしょに活動したりする | 4-3-2-1 |
| 17 | 希望の校務分掌を任されてそれに打ち込む | 4-3-2-1 |
| 18 | 教師としての力量が高まる | 4-3-2-1 |
| 19 | 給料が安定していて福利厚生が充実している | 4-3-2-1 |
| 20 | 夏季、冬季等の長期休暇がとれる | 4-3-2-1 |
| 21 | 自分の能力が認められ昇進する | 4-3-2-1 |
| 22 | 自分の能力が発揮できる | 4-3-2-1 |
| 23 | 創造的な仕事ができる | 4-3-2-1 |
| 24 | 社会的に価値のある職業についている | 4-3-2-1 |

合計点

- | | | |
|----|------------------------|---------|
| 1 | 子どもから頼りにされる | 4-3-2-1 |
| 2 | 職場の雰囲気や和やかである | 4-3-2-1 |
| 3 | 地域の人から「先生」といわれ、一目置かれる | 4-3-2-1 |
| 4 | 職場以外の人から自分の教育実践が認められる | 4-3-2-1 |
| 5 | 自分の考えが、子どもに支持される | 4-3-2-1 |
| 6 | 子どもと気持ちを通じあう | 4-3-2-1 |
| 7 | 自分の仕事が子どもの成長に役に立つ | 4-3-2-1 |
| 8 | 問題などを抱えている子どもへの援助が成り立つ | 4-3-2-1 |
| 9 | 子どもが自分の思い通りに動く | 4-3-2-1 |
| 10 | 対外行事や部活等でよい結果を得る | 4-3-2-1 |

学校・場面ストレス尺度

以下に、日ごろ、先生方が「困難」ないし「いらだち」を感じやすい事柄をあげてあります。過去1年の間で、これらの項目に対して、どの程度ストレスを経験しましたか。

その頻度について、あてはまる数字に○をつけてください。
なお、数字には次のような意味があります。

4	:	いつもストレスと感じた
3	:	ときどきストレスと感じた
2	:	あまりストレスと感じなかった
1	:	まったくストレスと感じなかった

- 1 児童・生徒が心を開いてくれない 4-3-2-1
- 2 反社会的な問題行動を持つ児童・生徒への指導 4-3-2-1
- 3 非社会的な問題行動を持つ児童・生徒への指導 4-3-2-1
- 4 校則にかかわる指導 4-3-2-1
- 5 部活動での児童・生徒の人間関係の調整 4-3-2-1
- 6 教師間での協力が得られない 4-3-2-1
- 7 他の教師の児童・生徒に対する態度への疑問 4-3-2-1
- 8 同僚の他の教員に対する態度への疑問 4-3-2-1
- 9 管理職との意見の食い違い 4-3-2-1
- 10 管理職の指導力への不信 4-3-2-1

- 11 管理職による評価 4-3-2-1
- 12 保護者の理解が得られない 4-3-2-1
- 13 地域の活動に教師として参加する 4-3-2-1
- 14 部・集会活動等の実践に対する周囲の評価 4-3-2-1
- 15 希望でない校内分掌の担当 4-3-2-1
- 16 学校行事の事前指導 4-3-2-1
- 17 諸帳簿への記入 4-3-2-1
- 18 専門外の部活およびクラブの指導 4-3-2-1
- 19 清掃指導 4-3-2-1
- 20 給食指導 4-3-2-1
- 21 学習指導 (保健室での対応) の成果が上がらない 4-3-2-1
- 22 学級経営 (保健室経営) がうまくいかない 4-3-2-1
- 23 自分の指導力への不信 4-3-2-1

合計点

資料④

キャリアステージに応じた役割と支援

④の1 . . . キャリアステージに応じた
教員への支援例

④の2 . . . トークンシステムを
活用した児童支援カード

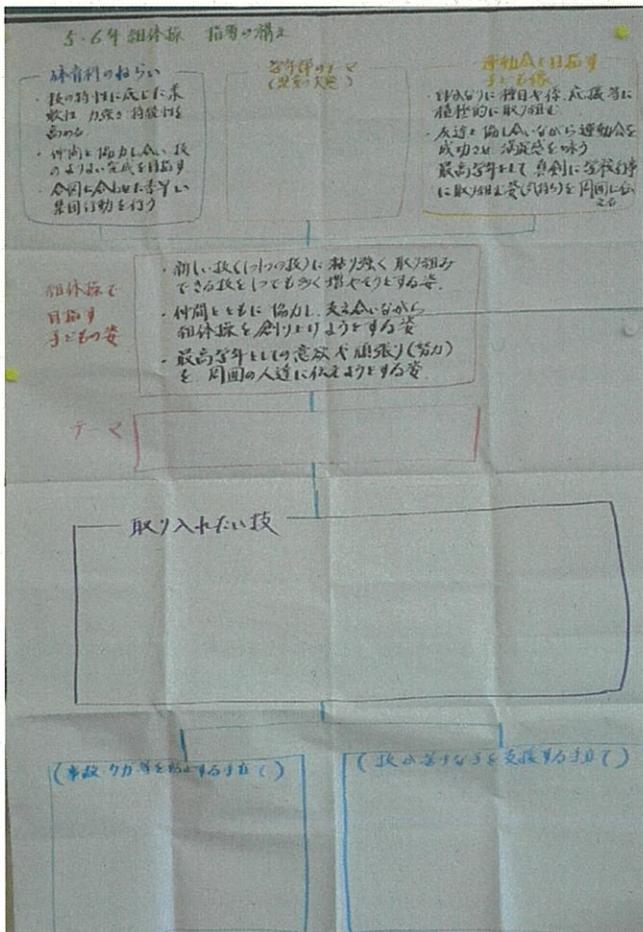
キャリアステージに応じた教員への育成支援例

①若手教員（A教諭）への支援

A教諭は、3地域目の若手教員である。熱心に学級経営に取り組み、ある程度の自信が付いてきている。だが、学年や学校全体を動かす事については様々な配慮や計画性の面でさらに力量をつける必要があった。

本年度は6年生の担当として、5月の運動会に向けて組体操（5・6年合同）を担当することになった。この機会を生かして、技の上達面だけでなく児童の安全面や自主性についても十分な配慮をした提案ができるように指導した。

下部左の写真は、A教諭とやり取りをしながら作成をし始めた時の組体操構想図である。



運動会は保護者や地域の方々がたくさん参観されることから、児童も教師も難易度の高い技を目指しがちである。技の上達だけでなく児童の安全面や組体操に取り組む自主性も大切にしなければ達成感や満足感を味わうことができない。その点に関しては、当日にいたる練習も含めて、5・6年生の児童は高い集中力と自主性を発揮して取り組んでいた。（上部右の写真）また、A教諭も手ごたえを感じることができ、指導力が高まったと思われる。

②ベテラン教員（B教諭）への支援

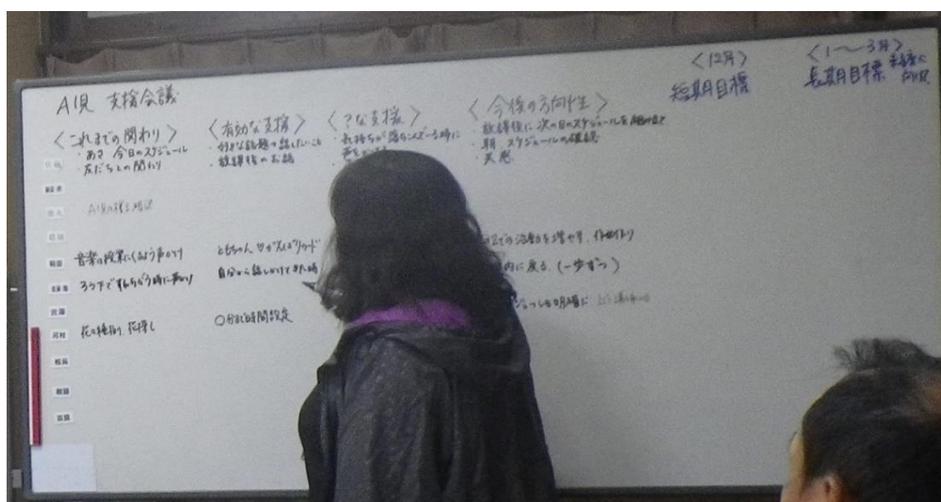
B教員にはベテランらしく発達に偏りのある児童に寄り添った指導を行える長所を生かし、本年度から特別支援学級担任と教育相談の担当を任せている。ただし、教育相談担当は初めてのため、ケース会議の運営や関係者との連絡調整で経験が十分ではない。そこで、ケース会議等を通して、教育相談コーディネーターとしての力量を育成していくことにした。



左の写真は、A児のケース会議の様子である。保護者との関係が原因で精神的に不安定になったため、関係機関とも連携を取り合い支援している。

A児に関わる職員がその特性を十分に共通理解し組織的に支援していくことを確認した。B教員には、会の司会をしながら運営を学んでいく場となった。

(ケース会議の参加者) 校長、教頭、B教諭、T児の担任（新採用）、T児の学年主任、教務主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、事務職員



上の写真は、松原教頭がホワイトボードを使って、会議の流れを示している場面である。

①会議の参加者とA児への関わり → ②有効だった支援方法 → ③今後の方向性 → ④短期・中期の目標 という進め方をB教諭や他の参加者に伝えていった。

この後、養護教諭から「トークンシステム」を紹介してもらい、A児の意欲や自己肯定感に配慮した支援カードをB教諭が作成し、それを皆で共通理解して支援にあたっていくことになった。その支援カードは、現在活用中で次ページに紹介する。

12月 日 曜日

今日のわたしの予定です

シールをためて ごほうびを ゲットしよう

よていを 立てて
いくことが
科学者への第1歩
ですよ！



	科もく	する こと	場 所	サ イ ン	シールの数
朝の時間					
1 時間目					
2 時間目					
3 時間目					
4 時間目					
給 食					
5 時間目					
6 時間目					
帰りの会					
ほうかご					

これができたら シールをゲット できますよ



ルールその1 ... その時間のあいだ、きめた場所に ずっといたらOKです。

ルールその2 ... その場所の先生に きよかをもらって ほかの場所に いくのは OKです。ただし、10分いないで もどってきます。

その時に、行った先の先生から やくそくがまもれた しるしの サインを もらってきます。

ともみ さんの がんばりツリー

シールを ためて ごほうびを げよう



シールを **10こ** ためると ...

シールを **20こ** ためると ...

シールを **30こ** ためると ...

シールを **40こ** ためると ...

シールを **50こ** ためると ...

資料⑤

3 部会 年間計画表

- ⑤の1 . . . 「知」部会
校内研修 年間計画
- ⑤の2 . . . 「徳」部会
生活指導 年間計画
- ⑤の3 . . . 「体」部会
体力向上 年間計画

校内研修 全体・年間計画

作成責任者：研究主任

学校教育目標	豊か・な心、知性、創造性、たくましさをもつ高田小の子どもの育成	
研究主題	◎「自ら学び考えを広げ、深め合う子どもの育成」 ～ ○○科における対話的な学びの実現を目指して～	
現状	・全体の場で考えを広げ、深め合うことに苦手意識を持つ子どもが多い。 ・板書の構造化、板書とノートの一体化が全学級で統一されていない。	
課題	・1時間の授業の中で、児童が互いの考えを出し合い深め合う場をどう工夫していけばよいか。 ・本校の授業改善の方向に沿って互見授業を行い、教員が自身のキャリアステージに沿って手ごたえを感じながら授業力を養ってほしい。	

研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
A研修	学校研究の方向性・学力向上プラン提示①(共通理解)	提案授業①(道徳科)	互見授業I	・学力向上プラン修正・改善① ・学力テストの分析・考察(5・6年) ・教育課程の修正(行事の見直し含む) ・特別支援、人権回 ・教育講師招請 ・小中一貫合同研修	学力向上プラン提示②(共通理解) 提案授業②	提案授業③ 互見授業II	提案授業④ 互見授業III	教育課程(年間行事・週時程表)	学力向上プラン修正・改善② 互見授業IV	学力向上プラン提示③(共通理解)	教育課程(年間授業時数、行事決定)の作成完了)	学力テストの分析・考察(4年)	次年度校内研修の方向性
B研修	教育課程の整備(学習規律・掲示物等)カリキュラムマネジメント研修												
C研修	図書館研(利用の年間計画)・特別支援研(把握と理解)	小中一貫合同研修				ICT研修		人権回和教員研修(人権週間の取組)小中一貫合同研修				特別な支援を要する子の引継ぎ資料作成	
生活指導研修 体力向上研修	児童理解に係る研修(生活指導部)体力テスト実施研修(体育部)				QU研修①(生活指導部)体育実技研修(体育部)	交通安全防止推進研修(生活指導部)			体力テスト結果報告(体育部分析)	QU研修②(生活指導部)			

研修内容の概要(どの課題に対応したもののか)	
A研修	◎授業改善・学力向上の視点から ・全学級で板書の構造化と板書とノートの一体化を目指し、パターン化することで学力の定着を図る。 ・ホワイトボードや話型ボードを活用し、根拠を明確にした意見交流の場を工夫する。
B研修	◎教育環境・教育課程の視点から ・児童が既習事項や生活経験などをもとに学習活動に取り組んでいけるような教育環境の整備を図る。 ・他教科、領域、領域、学校行事との関連を意識した教育課程を編成できるよう、カリキュラムマネジメントの視点を養う研修を行う。
C研修	◎その他の視点から(人権回和教員、特別支援教育、小中一貫教育等) ・生徒指導の3機能を意識した学級経営や授業改善を行い、協働的な学びの実現を図る。 ・小中一貫合同研修会等で課題を共有し、指導の方向性を揃える。

学校教育目標	豊かな心、知性、創造性、たくましさをもつ高田小の子どもの育成	
生徒指導に係る ◎年間経営目標と ・取組目標値	◎「学校が楽しい」と思う児童の割合を90%以上にする。 ・指導の重点である高田っ子の3つの約束「元気なあいさつ」「声0しんけんそうじ」「声0しんけんそうじ」ができた児童の割合を、90%以上にする。	
現 状	・あいさつ運動の際は元気の良いあいさつができていないが、自分から進んであいさつをする子は少ない。保護者アンケートによると、学校外（地域）ではあいさつが十分ではない。 ・「声0そうじ」は、十分できていない。そうじにはある程度取り組んでいるが、話をしている子が多い。 ・「時間を守る」は、数年前に比べてチャイムの合図は守れてきている。自分で時計を見ながら時間を考えて行動することは十分とはいえない。	
課 題	・「高田っ子3つの約束」は、3つともある程度は守れているが十分ではないという現状である。そこで、優先順位をつけて取り組む必要がある。①あいさつ、②そうじ、③時間とする。 ・短期または中期のPDCAサイクルを年間計画の中に位置付け、見直しをもたせたい。また、サイクルを回す担当者や責任の所在を明確にする必要がある。 ・トイレのスリッパやくつばこが乱雑な実態から、「はきものをそろえる」を重点目標に加えることも必要ではないか。「整理・整とん」というくくりでもよい。	

		指 導 の 重 点 の P D C A サ イ ク ル											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研 修 重点 1～3	元気なあいさつ① (評価・部会) 9月に向けて				声0そうじ① (評価・部会) 12月に向けて		元気なあいさつ② (評価・部会) 1月に向けて			声0そうじ② (評価・部会) 3月に向けて	元気なあいさつ③		声0そうじ③
月別 目標	元気よくあい さつをしよう	合図を守って きびきび行動 しよう	室内の過ごし方を 考えよう・はきも のをそろえよう	声0しんけん そうじにがん ばろう	声0しんけん そうじにがん ばろう	いじめ問題対 応・経過報告	進んであいさ つをしよう	ろうかを静かに歩 こう・はきものを そろえよう	ふわふわ言葉 でなかよくし よう	声0でさしす せそうじにが んばろう	感じの良いあいさ つをしよう・おいし い絵巻、食べ慣し0	寒さにまけな い体力づくり をしよう	さしすせそう じで学校をき れいにしよう
いじめ・不 登校等対応	いじめ問題対 応研修												
職員研修	児童理解に係 る研修					いじめ問題対 応研修	交通安全事故防止 推進研修				QU研修②		

		指 導 の 重 点 の 概 要 (高 田 っ 子 3 つ の 約 束)											
重点 1	「元気なあいさつ」 → 気持ちの良いあいさつができる子 ○全校の合言葉「あいさつはいつでも だれとでも」をもとに、あいさつ指導に取り組む。低学年、中学年、高学年くらの発達段階で、あいさつの目標を決める。 例として、低学年では「元気よく」、中学年では「進んで(先手)」、高学年では「感じの良い」が考えられる。 ○上記の年間目標にある月で2週間取り組み、その月に生活指導部会をもって分析・検討する。その結果は、企画委員会や職員会議で報告する。部会の開催と報告は生活指導主任が行う。												
重点 2	「声0そうじ」 → さしすせそうじができる子 ○全校の合言葉「さしすせそうじ」をがんばろうをもとに、清掃指導に取り組む。6年生になった時に、自分の掃除区域に責任をもって取り組み、仕事ぶりに誇りが持てるようにしたい。分担当が終わっても、自分からきれいに掃除するよう子どもが増えることを願っている。仕事の手順をきめ細かく教え、できたら役立ちを認めていく。 ○上記の年間目標にある月で2週間取り組み、その月に生活指導部会をもって分析・検討する。その結果は、企画委員会や職員会議で報告する。部会の開催と報告は生活指導主任が行う。												
重点 3	「時間を守る」 → 時間を守ることができ ○年間の計画には入っていないが、「時間を守る」は、その意義を含めて毎日の生活の中で指導していく。1学期の児童の様子を見て、2学期以降の計画に加えるかを検討する。 ○上記の課題で、「はきものをそろえる」が出されたので、これを年間2回ほど月別目標に組み込む。												

体力向上 年間計画

作成責任者：体育主任

学校教育目標	豊かな心、知性、創造性、たくましさをもつ高田小の子どもの育成	
体力向上に係る ◎年間経営目標と ・取組目標値	◎新体力テストにおける全国平均以上の割合を、75%以上にする。 ・サーキット・持久走・なわとび、月間の等のチャレンジ運動への参加児童が90%以上 ・中屋休みに外で遊ぶ児童の割合が90%以上 ・休み時間以外で遊ぶ児童は、児童のアンケートと保護者のアンケートにずれがある。 ・おそらく、学校では外で遊ぶ児童は増えているが、帰宅後は家の中で過ごす子どもが多いと思われる ・1学期は暑さのため、外遊びやチャレンジ運動は状況や個人に応じて柔軟に取り組んでいる。 ・チャレンジ運動にはよく取り組んでいるので、次年度はカードを使った振り返りも工夫して継続していきたい。 ・本校は運動会と体力テストの時期が重なる期間があるため、体力テストへの取り組み方を工夫する。(体力テスト実施研修等) ・柔軟性や握力を高めるために、家庭での運動も呼び掛けていきたい。	
現 状		
課 題		

研 修	月 別 の 取 り 組 み ス ケ ジ ュ ー ル											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体力向上	バトン投げ・上体起こし(学校) 筋力・柔軟性(家庭)	スピード(運動会練習を兼ねて)	体力テストI全種目(7月上旬まで) テストまでに反復横跳び・シャトルラン・立ち幅跳び(学校)			ワクワク体カアップ教室 筋力・柔軟性(家庭)	体力テストII(筋力・柔軟性・50M走) チャレンジ運動(付一キット)	チャレンジ運動(持久走)	体力テストII(シャトルラン)	チャレンジ運動(なわとび)	体力テストII(立ち幅跳び・反復横跳び) 筋力・柔軟性(家庭)	
体育行事		運動会	水泳						持久走大会(12月上旬)		なわとび大会(2月上旬)	
職員研修	体力テスト実施研修				体育実技研修				体力テストの結果報告(体育部分析)			

取 り 組 み 内 容 の 概 要	
体力向上	◎体力テスト関係 体力テストは1学期に1回(全種目)と2学期以降は数種目ごとに複数回行う。児童には、自分の体力向上に対し関心を持たせたい。 ◎体力向上の取り組み関係 2学期以降に3つのチャレンジ運動(サーキット・持久走・なわとび)を行い体力向上を図る。筋力(握力)と柔軟性(長座体前屈)を高めるため、家庭での運動を推奨する。
体育行事	◎運動会・・・練習を通じ、主としてスピードや集団行動をつけることをねらう。 ◎水泳関係・・・全身運動である。 ◎持久走関係・・・練習を通じ、主として全身持久力をつけることをねらう。 ◎なわとび関係・・・練習を通じ、主として全身持久力や調整力、敏捷性などをつけることをねらう。 ◎体育実技研修・・・できれば講師を招聘して行う。実技種目は体育部と講師で調整する。(年間1～2回)
職員研修	◎体力テスト実施研修・・・講師を招聘して行う。(体力テストの前に行う)

資料⑥

来年度に向けた校時表の見直し

- ⑥の1 . . . 来年度の校時表
- ⑥の2 . . . 来年度の変更点について
の説明資料
(保護者・地域へ)

令和2年度 校 時 表 (通常時)

月・火		水		木・金	
登校 ～ 8:10					
(月) ぐんぐんタイム (火) ぶくぶくタイム	8:15 ～ 8:25	※小教研は 4時間授業	通常は午前4・午後1時間授業 (個人面談・教育相談週間時のみ 午前5時間授業とする)	(木) 読書タイム (金) 集会 ①全校②音楽 ③ファミリー④体育 ※ぐんぐんタイム	8:15 ～ 8:30
健康観察	8:25 ～ 8:30	健康観察	8:15 ～ 8:20	健康観察	8:35 ～ 8:40
1校時	8:30 ～ 9:15	1校時	8:20 ～ 9:05	1校時	8:40 ～ 9:25
2校時	9:20 ～ 10:05	2校時	9:10 ～ 9:55	2校時	9:30 ～ 10:15
中休み	10:05 ～ 10:25	中休み	9:55 ～ 10:15	中休み	10:15 ～ 10:35
3校時	10:25 ～ 11:10	3校時	10:15 ～ 11:00	3校時	10:35 ～ 11:20
4校時	11:15 ～ 12:00	4校時	11:05 ～ 11:50	4校時	11:25 ～ 12:10
給食	12:00 ～ 12:40	給食	11:50 ～ 12:30	給食	12:10 ～ 12:50
片付けタイム	12:40 ～ 12:45	片付けタイム	12:30 ～ 12:35	片付けタイム	12:50 ～ 12:55
昼休み	12:45 ～ 13:15	昼休み	12:35 ～ 12:55	昼休み	12:55 ～ 13:25
そうじ	13:15 ～ 13:30	5校時	13:00 ～ 13:45	そうじ	13:25 ～ 13:40
5校時	13:35 ～ 14:20	帰りの会	13:45 ～ 14:00	5校時	13:45 ～ 14:30
6校時	14:25 ～ 15:10	児童下校	14:00	6校時	14:35 ～ 15:20
※委員会、児童会、 クラブ (帰りの会修了後 集合)	14:40 ～ 15:25	(小教研時は4校時まで) ※給食 11:50 ～ 12:30		帰りの会	15:20 ～ 15:35
帰りの会	15:10 ～ 15:25	片付けタイム	12:30 ～ 12:35		
児童下校	15:25	帰りの会	12:35 ～ 12:50	児童下校	15:35
職員休憩	15:25 ～ 15:40	職員休憩	14:00 ～ 14:45	職員休憩	15:35 ～ 15:50
会議	15:45 ～ 16:35	連絡会	14:50 ～ 15:10	(木) ケース会議	
(月) 分掌部会、企画委員会、職員会議 (火) 学年部会		研修	15:15 ～ 16:30		

令和2年度 校 時 表 (午前中5時間授業時)

月・火		(個人面談・教育相談週間時)		木・金	
登校 ～8:10					
(月) ぐんぐんタイム (火) ぶくぶくタイム	8:15 ～	8:25	午前5時間授業の場合	(木) 読書タイム (金) 集会 ①全校の音楽 ②ファミリー④体育 ※ぐんぐんタイム	8:15 ～ 8:30
健康観察	8:25 ～	8:30	健康観察	健康観察	8:35 ～ 8:40
1校時	8:30 ～	9:15	1校時	1校時	8:40 ～ 9:25
2校時	9:20 ～	10:05	2校時	2校時	9:30 ～ 10:15
中休み	10:05 ～	10:25	中休み	中休み	10:15 ～ 10:35
3校時	10:25 ～	11:10	3校時	3校時	10:35 ～ 11:20
4校時	11:15 ～	12:00	4校時	4校時	11:25 ～ 12:10
給食	12:00 ～	12:40	5校時	給食	12:10 ～ 12:50
片付けタイム	12:40 ～	12:45	給食	片付けタイム	12:50 ～ 12:55
昼休み	12:45 ～	13:15	片付けタイム	昼休み	12:55 ～ 13:25
そうじ	13:15 ～	13:30	帰りの会	そうじ	13:25 ～ 13:40
5校時	13:35 ～	14:20	児童下校	5校時	13:45 ～ 14:30
6校時	14:25 ～	15:10		6校時	14:35 ～ 15:20
※委員会、児童会、 クラブ (帰りの会修了後 集会)	14:40 ～	15:25		帰りの会	15:20 ～ 15:35
帰りの会	15:10 ～	15:25		児童下校	15:35
児童下校	15:25				
職員休憩	15:25 ～	15:40	職員休憩	職員休憩	15:35 ～ 15:50
会議	15:45 ～	16:35	(連絡会)	(木) ケース会議	
(月) 分掌部会、企画委員会、職員会議 (火) 学年部会			(研修)		



こんなことを お話します

- I 今年度の学校の様子
- II 来年度のことについて
- III ご協力いただくこと

I 今年度の学校の様子

(学習面では)

- ・ わかる喜びと学ぶ楽しさのある授業づくりに取り組んでいます。
- ・ 読書の推進と家庭学習の定着をよびかけています。

学力テストなどの結果では

- ① 全校の単元別テストの平均
国語 85点 算数 84点
- ② 5年生の学力調査
国語(知識・活用)、算数(知識)、理科(知識)の4項目(6項目中)で県を上回りました。
- ③ 6年生の学力テスト
国語は全国・県の両方を上回りました。

(生活面では)

- ・ 互いに支え合い、励まし合える温かい学級や学年づくりに取り組んでいます。
- ・ 地域の教育力を生かした体験活動を行ってきました。
- ・ あいさつ、そうじに重点をおいています。

アンケート結果から

- ① 「学校が楽しい」 児童:92.3%
「子どもは楽しく学校に通っている」 保護者:95.6%
- ② 「進んであいさつをしている」 児童:92%
「子どもは家庭・地域で挨拶している」 保護者:78.4%
- ③ 「真剣にそうじをしている」 児童:93%

心に残る さまざまな 体験活動



(体力面では)



- ・ 体育授業やチャレンジ運動を通して体力向上に取り組んでいます。
- ・ 給食後の歯磨きも奨励し、むし歯予防も呼び掛けています。



体力テストの結果から

昨年度は、全国平均を超えた割合が、ほぼ70%まで上がりました。



保健室のアンケートから

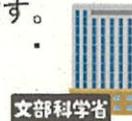
- ・ 朝7時までの起床・・・ 94%
- ・ 毎朝の洗顔・・・ 67%
- ・ 毎日の歯磨き・・・ 84% (朝) 92% (夜)
- ・ 朝ごはん・・・ 88% (昨年85%)
- ・ 夜22時までの就寝・・・ 73% (23時までは94%)
- ・ 休日ゲームを1時間以上・・・ 32% (平日は17%)



II 来年度のことについて

文部科学省が出した教育の一定の基準となる「新学習指導要領」が、小学校では4月から全面实施されます。

「学習指導要領」は、時代の変化を反映し、約10年おきに改訂されています。今回の改訂の背景には・・・



Society 5.0時代の到来を見据えて



- ・ 社会的課題を解決した超スマート社会
- ・ グローバル化
- ・ 社会の急激な変化
- ・ 現在の仕事の半数がなくなるとも



教育の目標が変わっていきます

社会の変化に対応するだけでなく、未来社会を創っていく力を子どもたちに育成していくことが求められています。

知識重視



資質・能力 (思考力や判断力、表現力、情報活用能力、学びに向かう力等) の育成を重視

学校現場の対応として

①各教科の授業を工夫・改善

アクティブラーニングの1つとして
高田小学校では・・・





ノート指導 (考えを持つ) ペアトーク (考えを伝える) ホワイトボード (考えを比べ合う)

みんなで 問題を解決していきながら・・・





話し合うことの効果とは・・・?

- 相手の言うことをよく聞く力がつく
- 論理を組み立てて話す力がつく
- 物事の理解が深まる
- 積極的に授業にのぞむ
- 自分の意見を修正する力がつく

互いに授業を磨き合って

- ・板書をわかりやすく工夫
- ・ノート指導など書くことを大切に
- ・ペアトークとホワイトボードの活用



○教員が同じ方向で子どもを育てる

②教育課程(カリキュラム)の見直し・作成も

「社会に開かれた教育課程」
※地域や家庭との連携推進を図る




《大きな変更点として》

- ・道徳や外国語(高学年)の教科化
- ・プログラミング学習やICT機器の活用
- ・授業時数の増加 等





年間授業時間の増加

	(H29年度)	→	(R2年度)
1年生	850時間	→	850時間
2年生	910時間	→	910時間
3年生	945時間	→	980時間(+35)
4年生	980時間	→	1015時間(+35)
5年生	980時間	→	1015時間(+35)
6年生	980時間	→	1015時間(+35)

外国語活動(3・4年生)、外国語科(5・6年生)の
時間が増加。



学校行事の見直しへ

学校行事で見直しを図るもの

- 努力遠足 → 実施しません。(安全性)
※ 持久走大会を全学年で実施
- お別れ遠足 → 実施しません。
※ 6年生を送る会は実施(給食有)
- 家庭訪問 → 個人面談(各教室にて)
※ 午前中5時間授業(給食有)

上記の見直しで、15時間の授業を確保

校時表の見直しも行います

子ども達と向き合う時間、授業準備、様々な打ち合わせ(会議)を確保するため、下校時間が少し早くなります。

○月・火曜日・・・ 14時35分(低) 15時25分(高)
 ○木・金曜日・・・ 14時45分(低) 15時35分(高)
 ○水曜日・・・ 14時00分(全校)

個人面談や学期末の教育相談週間は、午前中5時間授業を行い、給食後に下校します。(全校13時15分)



「知」部会の 校内研修計画

校務部長 伊藤 洋二

研修項目	研修内容	研修日時	研修場所
1. 授業実践
2. 教材研究
3. 教育相談



「徳」部会の 生活指導計画

校長 伊藤 洋二

生活指導の目的は、児童の健全な成長と生活習慣の確立にある。

学年	重点事項	指導内容
1年生	生活習慣の確立	挨拶、あいさつ、生活習慣の確立
2年生	読書の習慣化	読書の習慣化、読書の楽しさを知る
3年生	読書の習慣化	読書の習慣化、読書の楽しさを知る
4年生	読書の習慣化	読書の習慣化、読書の楽しさを知る
5年生	読書の習慣化	読書の習慣化、読書の楽しさを知る
6年生	読書の習慣化	読書の習慣化、読書の楽しさを知る

Ⅲ ご協力いただくこと

(保護者の方々)

- 家庭学習、読書の習慣化
- あいさつや基本的な生活習慣の確立
- インターネット等への正しい理解

(地域の皆様)

- 子どもたちの見守り、あいさつ、声掛け
- 学校行事へのご協力

※ 家庭、地域、学校が連携して高田っ子の育成を



明治6年開校 創立146年 長き歴史と伝統

11月10日に97回目の 先哲祭

先人の 生き方に学ぶ

第一校歌

大野の流 れゆるめり 東西にわたる
 地味ゆるわ 郷土の
 名を 地をな

第二校歌

流れる 豊かな 大野川
 我々が 高田小 学校合

チーム「琵琶の州」の力を合わせて



未来を担う
高田っ子の ために